令和３年度
茨城大学 社会連携センター 年報



令和４年３月

令和３年度 茨城大学社会連携センターの活動

１．2021年度：社連活動方針

２．新たな取り組み
（１）アントレプレナーシップ教育プログラム　【資料１】
①入門プログラム授業
②アントレプレナーシップルームの開設
③起業セミナー　【資料２】
④キックオフ・シンポジウム　【資料３】
⑤茨城県学生ビジネスプランコンテスト2021　【資料４】
⑥地域向けシンポジウム　【資料５】

３．地域連携に関する主な事業
（１）女性の地域参画促進セミナー　【資料６】
（２）各種プロジェクトおよび学生の地域活動支援
①「地域連携・地域研究プロジェクト」　【資料７】
②「学生地域参画プロジェクト」　【資料８】
③ 学生の地域連携活動の発表会の実施　【資料９】
④学生パートナー
（３） 茨城大学社会人リカレント教育　【資料１０】
（４）社会教育・生涯学習事業　【資料１１】
（５）令和３年度社会教育主事講習の実施
（６）連携自治体との意見交換会　【資料１２】
（７）社会連携センターからの情報発信

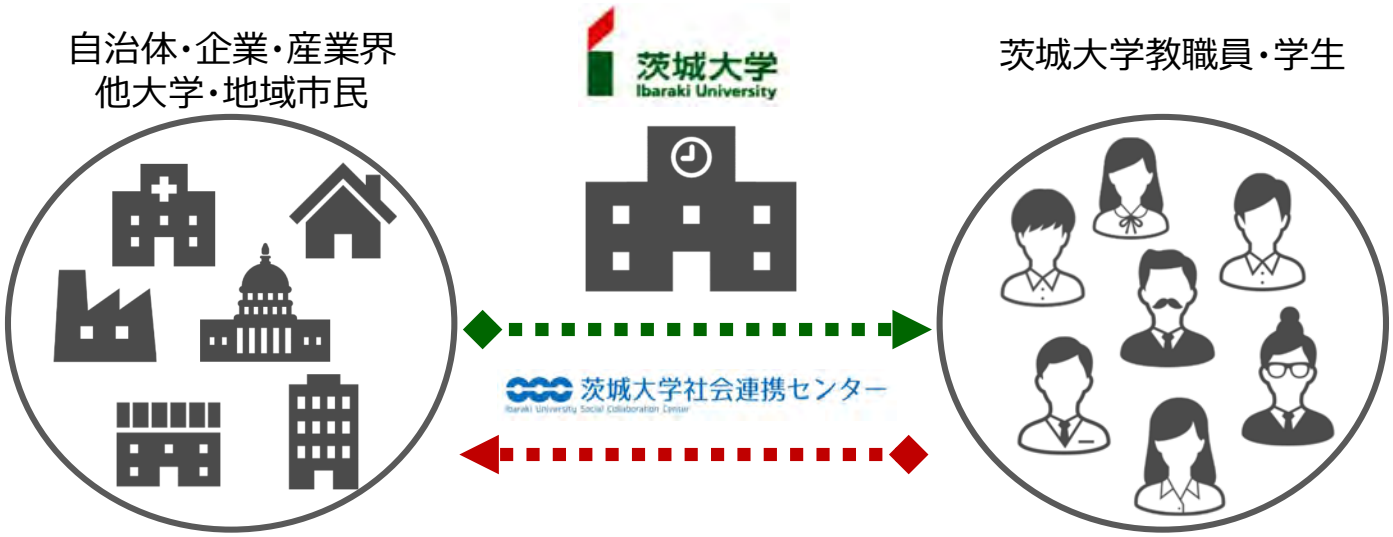
４．企業・産業界との連携
茨城産業会議との連携事業　【資料１３】

５．自治体・地域等との連携
（１）水戸観光コンベンション協会と大学との連携協定を締結　【資料１４】
（２）学生と水戸市との連携

６．社会連携活動の充実
点検評価　【資料１５】



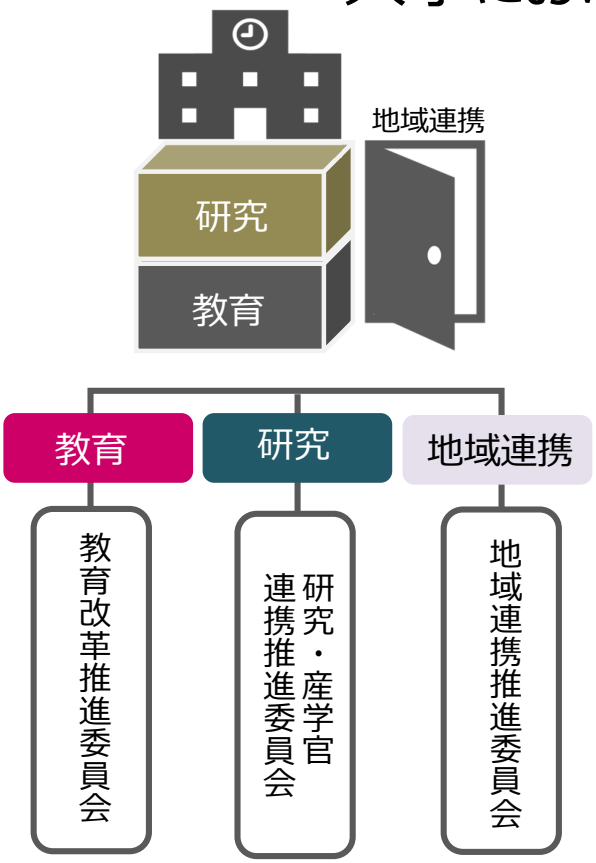
社会連携センターのミッション

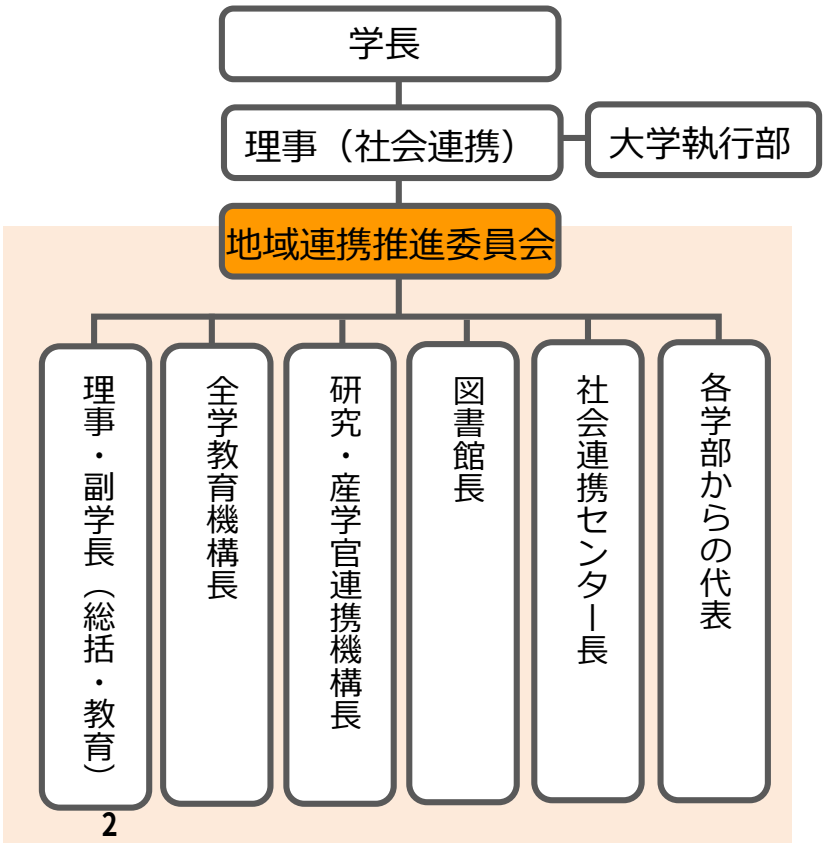


① 茨城大学における学内外への**「窓口」**となり、大学とさまざまなアクターの方々とをつなぐ**「プラットホーム」**の役割を果たすこと
② 地域の課題を茨城大学の**教育、研究、協働**へつなげること

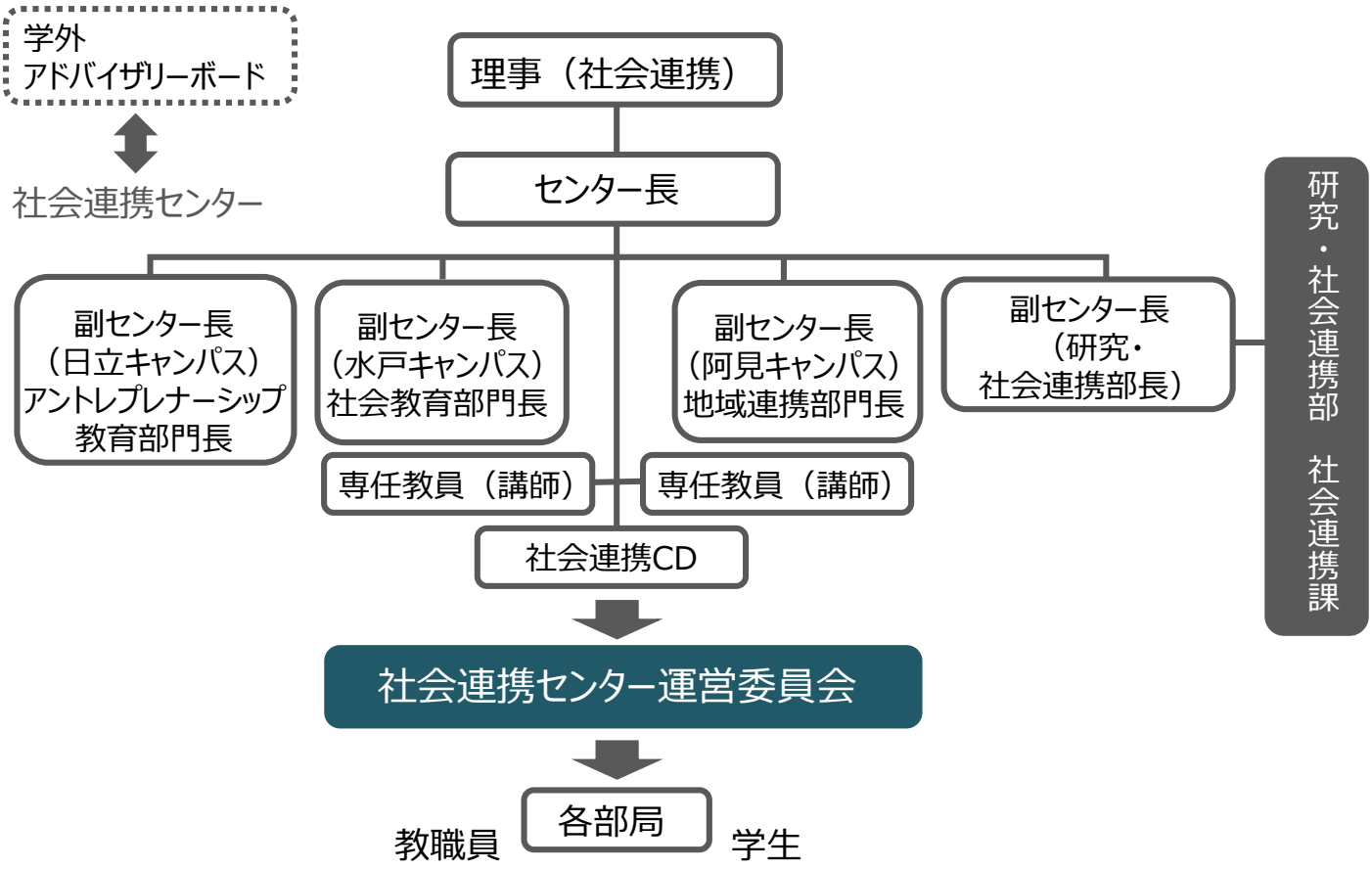
中目中計における大項目３：
"社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標"を達成するための学内組織としての機能を果たすことをミッションとする

大学における地域連携体制





2021年度社会連携センター組織図



2021年度：社連活動方針

2021年度社会連携センターの事業計画

地域の企業・自治体等とのネットワークの推進

- 茨城県及び産業会議等との連携、「パートナー企業」連携、連携協定締結

学生・教員の地域活動の支援

- 「学生地域参画プロジェクト」「地域研究・地域連携プロジェクト」

リカレント教育の推進

- 「オープンコース（公開講座・公開授業）」「専門コース」「カスタムコース」

アントレプレナーシップ教育プログラム

- 2021年度後期開講新規プログラム

社会教育主事講習の実施

- 茨城県、栃木県、宇都宮大学との連携による社会教育主事講習の実施

いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム事業の整備

- 茨城県内全13大学からなるコンソーシアムでの人財育成事業

２．新たな取り組み

（１）アントレプレナーシップ教育プログラム⇒【資料１】

アントレプレナーシップ（起業家精神）を有する人財を育成するため、茨城大学と茨城県が連携し、「いばらきに豊かさを生み出す起業家・社内起業家精神の育成」をテーマにした新たな教育プログラムを、2021年10月から開始しました。

育成する人財像

① 新たな価値を事業化するための基礎的知識・技能を持った人財

② 地域や企業内から新たな価値を見出し、ビジネスによりその価値を高めようとするマインドを持った人財

③ 失敗を恐れずに新たな価値の創出に挑戦する行動力及び分析力を持った人財

プログラムの内容



①入門プログラム授業（各１単位）

■アントレプレナーシップ入門Ⅰ

内容：アントレプレナーに必要なスキル・資質について考える
講師：菅原　広豊　氏（Hitachifrogs　代表）
　　横田　能洋　氏（認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ　代表理事）
　　倉田　浩伸　氏（株式会社クラタペッパー　代表取締役社長）
　　鈴木　伸之　氏（マイクロソフト株式会社アメリカ本社　シニア・エンジニア）

■アントレプレナーシップ入門Ⅱ

内容：イノベーションについて考える
講師：伊藤　俊一郎　氏（株式会社リーバー　代表取締役）
　　光畑　由佳　　氏（有限会社モーハウス　代表取締役）
　　粟飯原　理咲　氏（アイランド株式会社　代表取締役社長）
　　堀下　恭平　　氏（株式会社しびっくぱわー　代表取締役社長）

■アントレプレナーシップ入門Ⅲ

内容：プロジェクトを企画立案するプロセスを体感する
講師：梅林　泰彦　氏（やさいバス株式会社　営業統括部長）

②アントレプレナーシップルームの開設

＜場所＞
茨城大学水戸キャンパス　社会連携センター2階

＜目標＞
・アントレプレナーシップを育むために、アントレプレナーシップルームを活用して自己研鑽、仲間と切磋琢磨できる場づくり

＜活動内容＞
・自主イベントや社会貢献プロジェクトの企画立案・運営
・アントレプレナーやイントレプレナーなどを外部講師に招いて、勉強会の実施
・茨城大学や各地のビジネスプランコンテストへの参加





③起業セミナー⇒【資料２】

＜日時＞
令和3年7月10日（土）14時～15時30分

＜場所＞
茨城大学社会連携センター3階　研修室
※オンライン（アーカイブ）配信を併せて実施

＜講義＞
テーマ：「「起業」のいろはを学んでみよう！」
講師　：鈴木　のどか　氏
（茨城県信用保証協会　創業支援課）

＜実績＞
対面：14人参加、アーカイブ配信：35回再生



④キックオフ・シンポジウム⇒【資料３】

＜日時＞
令和3年7月31日（土）14時～17時
＜場所＞
茨城大学図書館3階　ライブラリーホール
※オンライン（ライブ、アーカイブ）配信を併せて実施
＜基調講演＞
森川　亮　氏
（C Channel 株式会社 代表取締役社長/
元LINE 株式会社 代表取締役社長）
＜アントレプレナー事例発表＆パネルトーク＞
堀下　恭平　氏
（グリーンバードつくば 創設者/
株式会社しびっくぱわー 代表取締役社長）
三浦　綾佳　氏
（株式会社ドロップ 代表取締役）
三ツ堀　裕太　氏
（株式会社ユニキャスト 代表取締役社長）
＜実績＞
対面：19人参加、ライブ配信：54人参加
アーカイブ配信：205回再生



⑤茨城県学生ビジネスプランコンテスト2021
⇒【資料４】

＜書類応募＞
募集期間：令和3年9月22日～10月20日
応募件数：61件（過去最多）

＜最終審査＞
日時：令和3年11月23日（火・祝）
13時～17時
場所：茨城大学図書館３階ライブラリーホール
※関係者以外の入場は不可とし、
一般観覧者に向けてオンライン配信を実施。

＜最優秀賞（茨城大学長賞）＞
チーム：水戸農業高校農業研究部
プラン　：規格外廃棄野菜でつくる未来のカタチ
～第1弾 イチゴの生パスタでみんなを幸せに～



⑥地域向けシンポジウム⇒【資料５】

<日時>
令和4年2月14日（月）15時～16時30分

<開催方法>
オンラインライブ配信（Zoom）

<テーマ>
アントレプレナーシップ人財が社会にどんな影響をもたらすか、そのような人財を育成するために大学と地域が連携して何をすべきかを考える。

<事例紹介・パネルトーク>
伊藤　龍史　氏
（新潟大学経済科学部　准教授）
小村　隆祐　氏
（Venture Café Tokyo　プログラム・ディレクター）
武田　直樹
（茨城大学社会連携センター　講師）

<実績>
ライブ配信：46人参加



３．地域連携に関する主な事業

（１）女性の地域参画の促進に向けたセミナー

「地域で女性が輝くために～ワーク・ライフ・バランスを考える～」　⇒【資料６】

本セミナーは、女性の地域参画について考えてもらおうと、茨城大学社会連携センターとダイバーシティ推進室が主催しました。当日は、県内企業の社員および自治体職員、本学教職員　計２８名が参加しました。 後日オンデマンド配信を実施し、約５０回視聴されました。

◆講演者
沼崎　周平 氏
（株）ユーゴー　代表取締役社長

◆パネリスト
山口　佳子 氏
（株）文化メディアワークス　教育事業部兼管理部長
鈴木　麻美 氏
茨城県労働政策課 副参事（ワーク・ライフ・バランス）

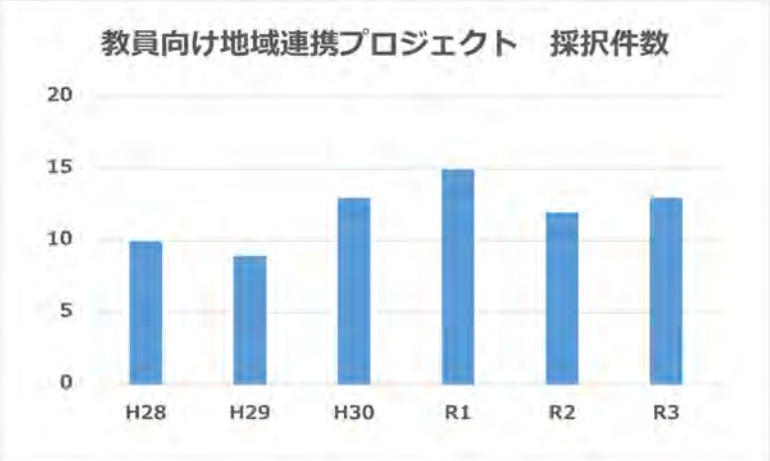


（２）各種プロジェクト及び学生の地域活動支援

①「地域研究・地域連携プロジェクト」　⇒【資料７】

本学教員が、自治体等と協働し、地域課題解決を目的として進める研究や事業を支援しています。
（令和３年度 採択件数：１３件）

＊R2年度までの地域研究・地域連携プロジェクト報告書（https://www.scc.ibaraki.ac.jp/project/chiikikenkyu/）
戦略的地域連携プロジェクト報告書（https://www.scc.ibaraki.ac.jp/project/startegic_localarea/）

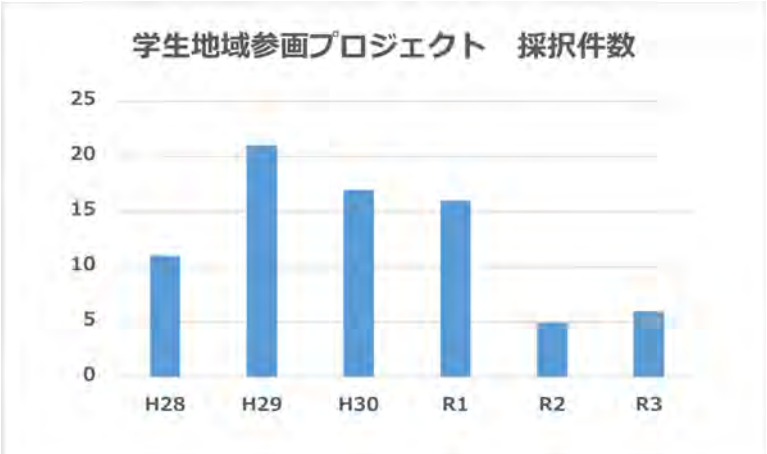


※H28～29
戦略的地域連携プロジェクトのみ実施
※H30～R1
戦略的地域連携プロジェクト及び
地域研究・地域連携プロジェクト実施
※R2～R3
地域研究・地域連携プロジェクトのみ実施

②「学生地域参画プロジェクト」　⇒【資料８】

本学学生が、自主的に行う地域活性化や地域連携活動を支援しています。
社会連携センターでは、予算の補助や活動に関する助言等を行っています。
H29年度からは、新しい取り組み等を支援するために、「学生地域参画プロジェクト（スタートアップ版）」も実施しています。（令和３年度採択件数　６件（うち１件スタートアップ版））

＊過去の報告書（https://www.scc.ibaraki.ac.jp/project/gakupro/）





③学生の地域連携活動の発表会の実施　⇒【資料９】



「令和３年度 茨大生の地域活動発表会」
令和３年度に学生地域参画プロジェクトや社会連携センター専任教員が担当のiOPに参加した学生が、活動の成果を発表しました。
日時：令和４年３月１１日（金）
開催方法：Zoom

④学生パートナー

社会連携センターの企画・運営に関わる「学生パートナー」に、令和３年度は２１名が登録しました。
また、「学生パートナー」として、以下の社会連携センター事業の運営に協力しました。

・三者連携講演会（司会・運営補助）
・自治体との実務者間意見交換会（参加）
・その他の地域連携事業に関する企画・運営の補助



自治体との意見交換会に参加する様子▶

（３）茨城大学社会人リカレント教育　⇒【資料１０】

茨城大学社会人向け「リカレント教育」は
「公開講座・公開授業」・「専門コース」・「カスタムコース」で構成
★公開講座・公開授業・・・誰でも自由に学べる
・公開授業については，全授業開講を中止。（COVID-19 対応のため。）
・公開講座については，以下の講座を開講。　（①～④は，茨城県からの委託事業）

①令和3 年度情報処理エンジニア育成セミナー

②【追加開催】令和3 年度情報処理エンジニア育成セミナー
概要：高度なIT知識を持つ人材の需要が日に日に高まっていることに対応し，本講座を開催。大学教員から専門知識を学びながら，ITエンジニアの登竜門とされる「基本情報技術者試験」の試験対策を行った。（好評につき，追加開催した。）

主　催　：茨城県，茨城大学
開催方法　：対面→オンデマンド配信に変更
※新型コロナウイルス感染症の影響により変更。
実施期間　：
①９月17日（金）～10月31日（日）
②12月17日（金）～1月31日（月）
申込者数：
①132名
②164名





③令和3年度多文化理解パートナー育成講座～茨城の多文化共生を考える～

概要：日本国内と茨城県内の在留外国人を取り巻く状況について理解を深め，その後外国人児童・生徒，在留外国人の支援について学ぶための講座。多様な背景を持った人々が暮らすコミュニティにおいて，「私たち」に何ができるのかを考え，実際に行動がとれるようになることを目指した。



主　催：茨城県，茨城大学
後　援：茨城県国際交流協会
開催方法：Zoomによるライブ配信及びオンデマンド配信
実施期間：令和３年10月２日（土）～11月20日（土）
講義回数：６回（特別企画を除く）
申込者数：92名

④令和３年度茨城エコ・カレッジ（体験コース）

概要：環境問題についての興味を持ち，環境保全活動を進んで実践するリーダーを養成するための講座。修了者には，茨城県知事及び茨城大学長連名の修了証を交付。
また，「茨城県地球温暖化防止活動推進員」の申込資格が得られる。



主　催：茨城県、茨城大学
開催方法：オンデマンド配信，フィールドワーク
配信期間：令和３年10月７日（木）～11月15日（月）
フィールドワーク日程：令和３年11月６日（土）
講義回数：９回（ガイダンス，総論，フィールドワークを除く）
申込者数：114名

⑤「キャッシュレスを活用しよう！」

概要：コロナ禍の下においては，現金を使わずにクレジットカードや電子マネー，スマートフォンで買い物をする「キャッシュレス決済」が注目され一段と活用されている。様々なキャッシュレス決済の基礎知識や注意点，活用法などについて，茨城県金融広報委員会（事務局：日本銀行水戸事務所）が派遣する金融広報アドバイザーが説明する講座。



主　催：茨城大学
開催方法：対面開催
開催日：令和３年12月４日（土）
講義回数：１回
申込者数：14名

⑥「水戸ホーリーホック連携公開講座 ～真に地域に愛されるクラブとは」

概要：水戸市を中心とした９市町村をホームタウンに活動するＪリーグクラブ・水戸ホーリーホック。地域に根差した市民クラブとして様々な取組を行っており，地域に対してクラブが提供出来る価値とは？を日々考え活動している。
水戸ホーリーホックが地域の皆様に愛されるクラブとなるための活動実績を振り返り，そして今後動かしていく事業や取り組み，さらにその先の未来に向けてやるべき事とは何かを考える講座。



主　催：茨城大学
開催方法：対面開催（11/28：試合観戦，12/4：社長講演）
開催日：令和３年11月28日（日）・12月４日（土）
講義回数：２回
申込者数：16名

★専門コース・・・専門分野のエッセンスを複数の科目を受講して学ぶ
→新規コース開設に向けて，現在検討中。
★カスタムコース・・・企業や自治体、団体等の要望に応じて
人財育成のプログラムをカスタマイズして提供

令和３年度前期（４月～８月）参加企業・団体及び参加人数

・関彰商事株式会社　・・・　８名　　・株式会社サザコーヒー　・・・　５名

令和３年度後期（９月～２月）参加企業・団体及び参加人数

・関彰商事株式会社　・・・　12名　　・株式会社サザコーヒー　・・・　４名
・那珂市　・・・　２名　　・水戸ヤクルト販売株式会社　・・・　２名
・ダイドードリンコ株式会社　・・・　４名（本年度より新規参加）
→令和３年度受講者合計　37 名

◎ 本年度より，カスタムコースの受講者は，身分について学内規則を整備したことにより，
自宅や職場等でもオンライン授業が受けられるようになった。



◎「いばらき社会人リカレント教育懇談会」の実施
「社会人リカレント教育」に関する意見交換を関係団体と行い，
プログラムに反映させながら進めている。
意見例：カスタムコースにおいて，DX・SDGs・政策課題解決等に
つながる科目の提供を希望
→本学対応：さらなる「提供科目の充実」を図る。

◎令和４年2月28日（月）カスタムコース受講生交流会を実施

（４）社会教育・生涯学習事業　⇒【資料１１】

社会連携センターでは全国，県内の生涯学習関係団体，県内生涯学習センター等と協力している。



・「いばらき子ども大学」への協力
大学，NPO法人，企業や市町村等の連携により，小学校4～6年生を対象に授業を展開。
→茨城大学では，例年会場として施設貸出や講師の派遣を実施。
本年度は，感染対策を行いながら，実施（一部講義は中止）。



・第７回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会への参加
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が感染拡大している状況下で，生涯学習・社会教育の分野で何ができるかを考える場を提供し，今後の実践に活かすことを目的に実施。
→新型コロナウイルス感染症対策として，オンラインを活用して開催。

（５）令和３年度社会教育主事講習の実施

社会教育主事（社会教育士）とは　・・・
社会教育法に基づき都道府県・市町村の教育委員会に置くこととされている専門的職員。
本講習により、必要な専門的知識、技能を習得させ、資格を付与する。
（参加者は主に現職の小中高教員）

＜概要＞
・宇都宮大学と２年ごとに本講習を実施しており，令和２年度・令和３年度は本学が講習の開催を担当した。（令和２年度は，新型コロナウイルス感染症対応で中止）
・日程：令和３年７月26日（月）～令和３年８月24日（火）
・実施方法：オンデマンド動画配信，遠隔同時双方向型配信
※集合型現地研修については，新型コロナウイルス感染症の影響により
　遠隔同時双方向型配信に変更。全講義オンライン開催。
・受講者：89名（茨城県：60名，栃木県：29名）
・修了者：89名（受講者全員）

受講者年代				
年代	20代	30代	40代	50代
人数	３名	33名	49名	4名

受講者からは，
・社会教育の知見が広がり、視野がひろがった
・オンライン講義への抵抗が無くなった
など，プラスの意見が多い。

（６）連携自治体との意見交換会　⇒【資料１２】

茨城大学と連携協定を締結している自治体の実務者様と、地域活性化のための連携事業をさらに進めていくために意見交換会を開催しました。
なお、今年度は１０名の学生も参加し、自治体の方と意見交換を行いました。

日時：令和３年１１月２２日（月）
場所：社会連携センター研修室
全体での開会のあと、以下３つのグループに分かれて
意見交換を行いました。
・「若者の定着・定住」
・「学生が参画するまちづくり、地域活性化事業（広報活動等）」
・「SDGs」



（７）社会連携センターからの情報発信

メールマガジン「社会連携センターニュース」を毎月１回送信しています。
FacebookやTwitter、HPを活用した情報発信を行いました。

4．企業・産業界との連携

茨城産業会議との連携事業

・茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会の開催（１１月１７日（水））⇒【資料１３】

『グリーン社会の実現と茨城の未来』をテーマに連携講演会を開催しました。

会場には企業、自治体等関係者及び本学学生の75人が参加した他、オンラインのライブ中継を47人が視聴しました。講演会では、本学の金野満副学長（研究・産学官連携）、産業界の代表として株式会社リグノマテリア代表取締役社長の三浦善司氏、茨城県から政策企画部地域振興課長の松田慧吾氏が、それぞれの立場から地域で連携したカーボンニュートラルに向けた戦略や具体的な取組を報告しました。

後半は三者のパネルディスカッションを行い、会場からは、日本国内だけでなく他国の状況を踏まえた目標設定や取組の必要性への指摘などの活発な議論が展開されました。



令和３年度「三者連携講演会」

5．自治体・地域等との連携

（１）水戸観光コンベンション協会と大学との連携協定を締結　⇒【資料１４】

９月１５日（水）に包括連携協定を結びました。

連携協定事業として、３月１８日（金）に「学会等開催支援セミナーin水戸」を開催しました。

（２）学生と水戸市との連携「保和苑周辺商店街活性化プロジェクト」

保和苑周辺史跡観光協議会（事務局：水戸市観光課）と本学学生11名が連携し、保和苑及びその周辺の魅力を若者目線で紹介するガイドブック「保和苑のかたわら」を作成しました。



6．社会連携活動の充実

点検評価

・ アドバイザリーボード会議を開催　⇒【資料１５】

３月９日（水）に会議を開催しました。令和３年度の活動全般及び特色ある活動について説明ののち意見交換が行われ、ご意見・ご助言をいただきました。

学長メッセージ



茨城大学長　太田　寛行

自分のアイデアを磨き、実現するために

「14歳で起業」、ある新聞でそんな見出しの記事を目にして私は驚きました。自身が通った学校の法人を買収するに至ったその若き起業家は、自らが経験した教育に対する違和感や物足りなさをそのままにしないために起業が必要だったと語っていました。現在は大学生だという彼女はとても真っ直ぐな人だと感じました。その「起業」の心は、アントレプレナーシップという言葉で表現され、その期待は国の再興にまで及ぶようです。数年前の文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業の説明の中では、「受講者が将来の産業構造の変革を起こす意欲を持つようになる」ようなプログラムを支援するとあります。我が国あげて起業の心を育てる制度を整えてきている中、14歳の思いが、「将来の産業構造の変革」につながれば、世の中はもっと面白くなると思っています。

ところで、アントレプレナーシップに連動する言葉として、「イノベーション」がよく出てきます。「技術革新」と訳されていますが、これは「歴史的誤訳」だと、武藤泰明氏は評しています（『マネジメントの文明史 ピラミッド建設からGAFAまで』（日本経済新聞出版））。原語からすれば、「新・結合」や「組み合わせ」であり、テクノロジーに限定しているわけではないからです。その「新・結合」の類型として、新しい生産方法、新しい販路、原材料・半製品の新しい供給源、新しい組織形態が挙げられています。「新・結合」や新しい「組み合わせ」をもっと身近なことから考えれば、アイデアが生まれやすく、さらに、いろいろな人たちとのコミュニケーションを重ねることによって大きく成長するかもしれません。その仕組みが、本学の「アントレプレナーシップ教育プログラム」だと考えています。

数年前に、シンガポール国立大学を訪ねたとき、アントレプレナーシップを実践する建物を見学しました。講義室から出てきた学生たちが、一斉に、同じ建物内にある様々な企業が参画するブースに散っていく光景を見ました。おそらくアイデアの続きを語り合っていたかもしれません。学生たちはとても生き生きした雰囲気でした。

本学の「アントレプレナーシップ教育プログラム」に参加して、ウィズ／アフター・コロナの時代で働くアイデアを一緒に育て磨きませんか！

お問い合わせ先　茨城大学 Ibaraki University

茨城大学　社会連携センター
〒310-8512 茨城県水戸市文京2丁目1番1号
TEL 029-228-8413　FAX 029-228-8495
Mail entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp
URL https://www.scc.ibaraki.ac.jp/entrepreneurship/

【資料１】

茨城大学 Ibaraki University

2021年10月スタート

アントレプレナーシップ教育プログラム

夢を想像し 未来を創造する



CHECK 01

アントレプレナーシップ（起業家精神）って？

「アントレプレナーシップ」とは、私たちの生きている社会をよりよくするために、失敗を恐れずに果敢に挑戦する精神です。
それは、起業家になるだけでなく、どのような道に進んだとしても求められるものです。

茨城大学で、未来の可能性を広げる力を身に付けよう！

- ☑ 新たな価値を創造するため、自分自身の意志で果敢に挑戦する精神
- ☑ 社会が大きく変革する中、失敗を恐れずにチャレンジし、たとえ失敗しても経験をバネに再チャレンジする精神
- ☑ 自ら課題を発見し、様々な立場の人と協調して解決策を考える姿勢と能力

CHECK 02

プログラムで何が身に付くの？

茨城大学では、すべての学生が卒業するまでに身に付けるべき5つの知識・能力「ディプロマ・ポリシー」を定めています。

Diploma Policy

5つの茨城大学型基盤学力

DP1 世界の俯瞰的理解
＜世界を見わたす＞

DP2 専門分野の学力
＜道を究める＞

DP3 課題解決能力・コミュニケーション力
＜ともに答えを導く＞

DP4 社会人としての姿勢
＜社会人として生きる＞

DP5 地域活性化志向
＜地域と向き合う＞

本プログラムではさらに

プログラムで身に付く力

いばらきに豊かさを生み出す起業家・社内起業家精神

1. 新たな価値を事業化するための基礎的知識・技能

2. 地域や企業内から新たな価値を見出し、ビジネスによりその価値を高めようとするマインド

3. 失敗を恐れずに新たな価値の創出に挑戦する行動力及び分析力

起業して「社長」になろうとする精神だけでなく、
就職先で新たな事業にチャレンジする社内起業家精神（イントレプレナーシップ）も身に付けることができます。

CHECK 04

どんな内容なの？

1年次 入門プログラム

『アントレプレナーシップ、イントレプレナーシップってなに？』

起業家・社内起業家としての在り方の基礎を学びます。

- アントレプレナーシップが必要とされる背景を学び、自分の将来像を思い描く。
- 企業経営者等の講義を聞いて、起業・社内起業にはどんなストーリーがあったか、起業・社内起業をするためにどんな知識・技能・環境が必要なのか理解する。

1年次～2年次 基礎プログラム

『アントレプレナーシップを身に付けよう』

実践的な知識・技能を修得します。

- マーケティングや統計・データサイエンスなどの科目から、自分に必要なものを選択して学び、知識・技能を修得する。
- ビジネスプランコンテストなどの実践的な取組を通して、企画力や課題発見・解決能力を磨く。

3年次～4年次 実践プログラム

『経営者になってみよう』

実践を通してこれまで身に付けた知識を統合します。

- ベンチャー企業等でのインターンシップに参加し、経営者の思いを聴き、企画の現場を体験する。
- 起業を疑似体験し、これまで修得したスキルを実践し、高める。

CHECK 03

プログラムの特長は？

①ホンモノに触れて力を付け、仲間と磨き合う

- 第一線で活躍する起業家や企業経営者等を招いた授業、ベンチャー企業等でのインターンシップ、疑似起業体験などを経て、実践的な力を身に付けます。
- 教員、企業担当者、学生同士で気軽にディスカッションできるオープンスペースを設置。アイデアをぶつけ合ってブラッシュアップできます。





②地域の人々の役に立つ

- 地域の企業や自治体と連携したカリキュラムを構築。茨城県の魅力や取り組むべき課題について、最前線で働く人から学びます。
- 地域社会の抱える課題を知り、ビジネスの視点で持続的な解決策を探るマインド、スキルを身に付けます。

③どの学部でも受講可能

- 学部のカリキュラムと並行してアントレプレナーシップを学ぶことができます。
- 他学部の学生との議論や共同作業を通して仲間を見つけ、視野を広げることができます。



修了した後は？社会での活躍のイメージは？

プログラムを通して身に付けた「失敗を恐れずにチャレンジする精神」、「企画力・課題解決能力」、「社会人としての基礎力」などを活かし、社会での活躍を目指します。
それぞれのステージで、「自分のやりたいこと」を実現しよう！

- ☑ 起業して経営者に
- ☑ 企業や行政機関で企画力を発揮
- ☑ ソーシャルビジネスで社会課題を解決

【資料２】

茨城大学アントレプレナーシップ教育プログラム・起業セミナー

「起業」のいろはを学んでみよう！

「起業」という言葉を最近よく耳にするけど、具体的にどういうものなのか
イメージが湧かない、そして、今後の自分の生き方にどのように繋げていけば良いのか
良く分からない…そういう皆さんのために、数々の創業支援をしてきた専門家が、
たくさんの事例を交えて、起業のいろは、面白さ、幅広さ、を教えてくださる
セミナーです。

講師：茨城県信用保証協会　創業支援課　鈴木のどか氏

講義内容：・「働く」ことについて考えてみよう
・社会環境の変化と多様化した働き方について考えてみよう
・「起業」とは何か？
・様々な起業の事例を紹介します
・その起業家の想いや起業の背景をお伝えします

開催日時：2021 年 7 月 10 日（土）
14:00～15:30

場所：茨城大学社会連携センター３階研修室

対象：大学生、高校生、中学生　等
※少しでも興味があれば、是非ご参加ください！

- **自分で起業してみたい…**
- **社会課題を解決して、世のため人のために活躍したい…**
- **何をしたいかわからないけど、色々な起業家の事例や想いを聞いてみたい…**

定員：40 人（先着順）

受講料：無料

申込方法：QR コードからお申込みください。
https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/6391.html/

申込 QR コード

応募締切：2021 年 7 月 4 日（日）

その他：講義の模様は録画してアーカイブを一定期間配信しますので、
当日ご都合が悪い方も参加頂けます。
なお、アーカイブ配信を視聴するためにも、申込が必要です。
アーカイブ配信に定員はございません。

注意事項：
＊申込みいただいた方は全員、アーカイブ配信を視聴することができます。
＊当日、会場での参加を希望する方は、申し込みの際に参加希望を選択してください。
＊新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況により、開催方法等を変更する場合があります。

お問い合わせ先：茨城大学社会連携センター
Tel：029-228-8413
E-Mail：entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp

主催：茨城大学
後援：茨城県、茨城県教育委員会

【資料３】

「アントレプレナーシップ教育プログラム」キックオフ・シンポジウム

茨城大学
Ibaraki University



茨大チャレンジ！
挑戦したくなる大学
日本一を目指して！

茨城大学は 今年 10 月から
「アントレプレナーシップ教育プログラム」
をスタートします！

講 演 者



森川 亮
C Channel 株式会社 代表取締役社長
元 LINE 株式会社 代表取締役社長



堀下 恭平
グリーンバードつくば
創設者
株式会社しびっくぱわー
代表取締役社長



三浦 綾佳
株式会社ドロップ
代表取締役



三ツ堀 裕太
株式会社ユニキャスト
代表取締役社長

詳 細

日 時	**2021年７月 31 日(土)** 14：00～17：00　13：30～受付開始
場 所	茨城大学図書館３階 ライブラリーホール （オンラインのライブ配信とアーカイブ配信も行います）
対 象	茨城大学生（特に１年生） ・高校生・中学生・大学教員・高校教員等
定員 (先着順)	会場（ライブラリーホール） 30 人 オンラインライブ配信（Zoom） 480 人
参加費	無料
申 込	QR コードからお申込みください。 2021 年７月 25 日（日）まで
その他	会場（ライブラリーホール）入場者は茨城大学１年次学生を優先させて頂きます。 講演の模様は録画してアーカイブを一定期間配信しますので、 当日ご都合が悪い方も参加頂けます。 （アーカイブ配信を視聴するためにも、申込みが必要です。）



【お問い合わせ先】
茨城大学社会連携センター
TEL：029-228-8413
Mail：entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp

主催：茨城大学
後援：茨城県
　　茨城県教育委員会

申込ページ
QR コード▶

https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/6298.html/

2021 年 10 月スタート

アントレプレナーシップ教育プログラム

アントレプレナーシップ(起業家精神)って？

「アントレプレナーシップ」とは、私たちの生きている社会をよりよくするために、失敗を恐れずに果敢に挑戦する精神です。
それは、起業家になるだけでなく、どのような道に進んだとしても求められるものです。

茨城大学で、未来の可能性を広げる力を身に付けよう！

- ☑ 新たな価値を創造するため、自分自身の意思で果敢に挑戦する精神
- ☑ 社会が大きく変革する中、失敗を恐れずにチャレンジし、たとえ失敗しても経験をバネに再チャレンジする精神
- ☑ 自ら課題を発見し、様々な立場の人と協調して解決策を考える姿勢と能力

当日のプログラム　14:00 開始

■ 茨城大学アントレプレナーシップ教育プログラム概要説明 14:05~14:20

中村麻子　社会連携センター長/理学部教授

■ 基調講演（オンライン講演）14:20~15:20

テーマ

「アントレプレナーシップを育むために、学生時代にしておくべきこと」

森川亮氏
C Channel 株式会社　代表取締役社長/元 LINE 株式会社　代表取締役社長

森川 亮
プロフィール
1989 年筑波大学卒、日本テレビ入社。1999 年、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修士課程を修了しMBA 取得。その後ソニーに入社。 2003 年ハンゲームジャパン（現ＬＩＮＥ株式会社）入社、07 年社長就任。2015 年 3 月、同社代表取締役社長を退任。同年 4 月、C Channel 株式会社代表取締役社長に就任。2020 年 5 月 C Channel は東京証券取引所 TOKYO PRO Market に上場。

■ 茨城県で活躍するアントレプレナー事例発表＆パネルトーク（対面）15:30~17:00

テーマ **「アントレプレナーシップの磨き方」**

1）堀下恭平氏　グリーンバードつくば 創設者/株式会社しびっくばわー 代表取締役社長
2）三浦綾佳氏　株式会社ドロップ 代表取締役
3）三ツ堀裕太氏　株式会社ユニキャスト 代表取締役社長
＊コーディネーター：武田直樹　社会連携センター講師（アントレプレナーシップ教育プログラム担当）

＊申込みいただいた方は全員、アーカイブ配信を視聴することができます。
＊当日、会場（ライブラリーホール）またはオンラインライブ配信（Zoom）での参加を希望する方は、申し込みの際に参加希望を選択してください。
＊規約により 16 歳未満の方は Zoom を利用することができません。保護者の方と一緒にご参加いただくか、アーカイブ配信をご視聴ください。
＊新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況により、開催方法等を変更する場合があります。

【資料４】

茨城県学生ビジネスプランコンテスト2021　最終審査結果

日時：2021年11月23日（火・祝）　13:00～17:00
場所：茨城大学図書館3階　ライブラリーホール

賞	チーム名
最優秀賞（茨城大学長賞）	水戸農業高校農業研究部（水戸農業高等学校）
株式会社旭物産賞	水戸農業高校農業研究部（水戸農業高等学校）
株式会社アプリシエイト賞	TUKTUKs（茨城工業高等専門学校）
株式会社サザコーヒー賞	HIOKOホールディングス株式会社　HIOKOキッチン（常陸大宮高等学校）
株式会社常陽銀行賞	HIOKOホールディングス株式会社　HIOKOファイナンス（常陸大宮高等学校）
株式会社筑波銀行賞	HIOKOホールディングス株式会社　HIOKOプランニング（常陸大宮高等学校）
株式会社ユーゴー賞	HIOKOホールディングス株式会社　HIOKOファイナンス（常陸大宮高等学校）
関彰商事株式会社賞	Hi Key（ハイキー）（筑波大学）
ダイドードリンコ株式会社賞	水戸農業高校農業研究部（水戸農業高等学校）
東京海上日動火災保険株式会社賞	Vマネージャーズ（勝田高等学校）
水戸ヤクルト販売株式会社賞	Rice Girls（水戸第二高等学校）
サポーター賞	Rice Girls（水戸第二高等学校）

茨城県
学生ビジネスプラン
コンテスト2021



2021年11月23日（火・祝）
13:00~17:00



茨城大学図書館3階 ライブラリーホール
オンライン同時配信

プログラム

13:00　開会　主催者挨拶

13:10　ビジネスプランプレゼンテーション　第1部（4組）

14:05　休憩

14:15　ビジネスプランプレゼンテーション　第2部（4組）

15:10　休憩

15:20　特別講演



「個の熱が未来をつくる」

髙橋 修一郎 氏
株式会社リバネス 代表取締役社長 COO

プロフィール

東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了、博士（生命科学）。設立時からリバネスに参画。大学院修了後は東京大学教員として研究活動を続ける一方でリバネスの研究所を立ち上げ、研究開発事業の基盤を構築。独自の研究助成「リバネス研究費」や未活用研究アイデアのデータベース「L-RAD」のビジネスモデルを考案し、産業界・アカデミア・教育界を巻き込んだプロジェクトを数多く仕掛ける。

16:10　休憩

16:20　講評・表彰式　最優秀賞（賞金20万円）、協賛企業賞、サポーター賞

17:00　閉会

主催：茨城大学

お問合せ先
茨城大学社会連携センター
TEL 029-228-8413／Mail entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp

茨城大学 Ibaraki University

茨城県学生ビジネスプランコンテスト2021
最終審査進出プラン紹介





第1部 13:10~14:05

「新たなビジネスのカタチ！ 高校生6次化カフェ(奥久慈アーバンキッチン)で 地域コミュニティづくり」
~HIOKOキッチンによる奥久慈 ローカルフードアセットビジネス~

チーム名 HIOKOホールディングス株式会社 HIOKOキッチン



所属／茨城県立常陸大宮高等学校

メンバー
2年 三上 想良
2年 野上 愛
2年 黒澤 徳之伸

プラン概要

市内の空き店舗をリメイクし、高校生の店舗型6次化カフェを経営します。メニューは奥久慈の新鮮な素材(ローカルフード)そして茨城県産のみを使用し、飲食の他、地場野菜や果物の販売等を行い、地域のブランディングとコミュニティを作り、茨城ブランドを発信します。

Ray Arena
—スポーツ環境お届けサービス—

チーム名 TUKTUKs

所属／茨城工業高等専門学校国際創造工学科



メンバー
4年 堤 羅馬、4年 金井 駿介
4年 Chantiang Kritin
4年 Juijongrak Sunanta
4年 高橋 翔生

プラン概要

Ray Arenaは、スポーツをしたい方のために、ボール、ラケット、ゴール等の必要なものをお届けするサービスです。また、一緒に体を動かす仲間を探すマッチング機能も兼ね備えています。Ray Arenaの最も大きな特徴は、プロジェクターによってコートを投影することです。大きさや色を自由自在に変えることができるため、あらゆるスポーツのコートを用意できます。光り輝くコートでのスポーツは、非日常な体験になること間違いなしです！

「観光立県へ！HIOKO版SDGs型 ワーケーション&サウナ事業」
~ととのう県IBARAKI“景色”と“食” 心のオアシスプランニング~

チーム名 HIOKOホールディングス株式会社 HIOKOプランニング

所属／茨城県立常陸大宮高等学校



メンバー
2年 飛田 輝
2年 杉山 美歩
1年 飛田 海輝

プラン概要

「うどん県」(香川)「おんせん県」(大分)に続く「ととのう県IBARAKI」として茨城の絶景を味わいながらのサウナ・ワーケーション事業です。街が元気になるためには“観光”が必須条件です！国民宿舎と連携し新たな茨城の魅力を発信するビジネス事業です。

規格外廃棄野菜でつくる未来のカタチ
~第1弾 イチゴの生パスタでみんなを幸せに~

チーム名 水戸農業高校農業研究部



所属／茨城県立水戸農業高等学校

メンバー
3年 小野瀬 蘭、3年 菊池 綾乃
3年 東野 未空、3年 塙 麗良
2年 大和田 まゆあ、2年 横江 藍

プラン概要

「畑で生まれる“食品ロス”」である規格外廃棄野菜を活用したビジネス。
将来「つくる側」になる私たち農業高校生が、活動の第1弾として廃棄されるイチゴを使って近隣のレストランと「イチゴの生パスタ」を共同開発。SDGs目標12「持続可能な消費と生産」の実現を目指す。
SDGsを原動力とした地方創生、経済と環境の好循環を創出することで、みんなが幸せになるビジネスモデルの構築を目指している。

第2部 14:15~15:10

お米で持続可能な未来へ！
~米麺の魅力を生産者から消費者へ橋渡し~

チーム名 Rice Girls

所属／茨城県立水戸第二高等学校



メンバー
1年 野口 菜楠
1年 鈴木 ちひろ
1年 竹安 遥香
1年 高山 結花

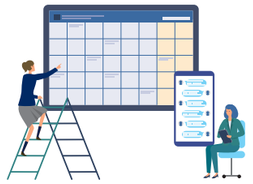
プラン概要

私たちは、米の消費量を少しでも向上させるために、地元で生産されている水戸産コシヒカリを使用して作った加工品「米麺」を材料として、家庭で簡単に作れるレシピを開発し商品化して、レストランやスーパーで販売し、作る人と食べる人の橋渡しをしたいと考えました。そして、地域を活性化し、私たちの未来のための贈り物としてSDGsを身近なものと捉えてもらうために、私たちは貢献したい！と思っています。

~部活が変わる!!部活で変える!!!~

チーム名 Vマネージャーズ

所属／茨城県立勝田高等学校



メンバー
2年 木内 大斗
2年 武田 敬佑
2年 鈴木 大翔
2年 石川 優弥

プラン概要

現在、働き方改革で教職員の部活動の負担が大きくなっているため、外部指導者を活用するという動きが増加しつつあります。しかしそこには、互いに生徒の情報や指導内容を共有することが難しいという課題もあるのです。そこで、それらの部活動に関すること全てを一つのアプリにまとめることで課題解決に繋がり、さらには「部活」をよりよいものに変えることができ、地域の活性化に繋がると考えました。

「リアル株式投資ができる 新たな金融教育を学ぶアプリ」
~HIOKOファイナンスによる金融機関と 作るリアル株式学習コンテンツ事業~

チーム名 HIOKOホールディングス株式会社 HIOKOファイナンス

所属／茨城県立常陸大宮高等学校



メンバー
2年 杉山 美歩
2年 廣木 遥斗

プラン概要

来年度から文部科学省主導で金融教育が始まります。今までの模擬の金融教育では得られない、生活実感のあるリアルな株式投資ができるアプリや生涯設計につながる深い学びができる金融教育コンテンツを高校生が金融機関とともに作ります。

~ 食品ロスをなくして win-win-winな世の中へ ~
筑波大学地域密着型廃棄予定弁当 デリバリー事業「Hi Key(ハイキー)」

チーム名 Hi Key(ハイキー)

所属／筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類



メンバー
3年 筒井 彩華
3年 田貝 奈央

プラン概要

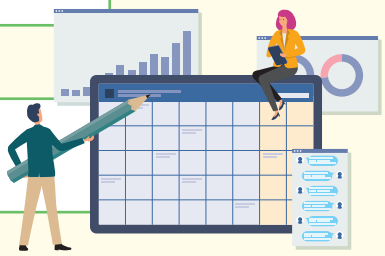
Hi Key(ハイキー)は閉店後破棄してしまうお弁当、お惣菜の食品ロスを解決したい、食費を抑えたい学生、仕事・研究が忙しい一人暮らし社会人向けの食品配達事業を提案する。小売業の店舗が閉店後に廃棄する弁当や惣菜を回収し、必要としている人に配達することにより、Uber Eats、出前館、コンビニエンスストア、20時以降に空いてるレストランとは異なり、食品ロスを減らし持続可能な社会を実現する。

茨城県学生ビジネスプランコンテスト2021の特長

●茨城県内で学生のみを対象とした唯一のコンテストです。
●応募プランについて分野を限定していません。営利に限らず、非営利のプランでも応募いただけます。
●事前相談会やフォローアップ研修会など、プランを審査するだけでなく、より良いものにするために手厚くサポートします。

茨城県学生ビジネスプランコンテスト2021の流れ

事前相談会 9月27日(月)～10月1日(金)
専門家による個別相談会でプラン作成をサポート



募集期間 9月22日(水)～10月20日(水)
大学生・高校生・中学生から61件の応募がありました

一次審査
書類審査により、上位8組を選出



最終審査 11月23日(火・祝)

フォローアップ研修 12月4日(土)
応募者全員を対象に、プランをより良くするためアドバイス

協賛企業(五十音順)

株式会社旭物産
株式会社アプリシエイト
株式会社サザコーヒー
株式会社常陽銀行
株式会社筑波銀行
株式会社ユーゴー
関彰商事株式会社
ダイドードリンコ株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
水戸ヤクルト販売株式会社

後援：茨城県、茨城県教育委員会、株式会社茨城新聞社、株式会社日刊工業新聞社

【資料５】



令和３年度　アントレプレナーシップ教育プログラム 地域向けシンポジウム

「アントレプレナーシップ教育が企業や地域にもたらすもの」

社会環境が大きく変化する中、アントレプレナーシップ（起業家精神）を持った人財が求められています。”失敗を恐れずにチャレンジする精神”、”企画力・課題解決能力”、”社会人としての基礎力”などを身に付けた人財は、起業家としてだけではなく、社内課題解決や新規企画立案など様々な場面で活躍できると考えられます。茨城大学は、地域に新たな豊かさを創造する人財の輩出を目指し、2021 年 10 月から「アントレプレナーシップ教育プログラム」をスタートしました。アントレプレナーシップ人財が社会にどんな影響をもたらすか、そのような人財を育成するために大学と地域が連携して何をすべきか、一緒に考えましょう。

日　時	2022 年 2 月 14 日（月）　15:00～16:30
開催方法	オンラインライブ配信（zoom）※録画してアーカイブ配信も行います。
対　象	どなたでもご覧いただけます。 （企業や自治体の人材育成担当者様、アントレプレナーシップや地域連携に興味のある学生　など）
定　員	80 名（先着順）
参加費	無料
申込方法	QR コードからお申し込みください
受付期限	2022 年 2 月 7 日（月）

https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/7245.html/

■アントレプレナーシップ教育の事例紹介・パネルトーク
・伊藤　龍史　新潟大学経済科学部　准教授
・小村　隆祐　Venture Café Tokyo　プログラム・ディレクター
・武田　直樹　茨城大学社会連携センター　講師（アントレプレナーシップ教育担当）

お問い合わせ先：茨城大学社会連携センター
（029-228-8413、E-Mail：entre-jimu@ml.ibaraki.ac.jp）
主催：茨城大学
※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況により、開催方法等を変更する場合があります。

茨城大学 Ibaraki University

アントレプレナーシップ教育の事例紹介・パネルトーク（15:00～16:30）

伊藤　龍史　新潟大学経済科学部　准教授



【プロフィール】
早稲田大学卒業後、早稲田大学大学院商学研究科修士課程・博士後期課程、早稲田大学産業経営研究所助手を経て 2009 年新潟大学着任、シリコンバレーのサンノゼ州立大学ビジネススクール客員研究員などを歴任。新潟県内のアントレプレナーシップ関連活動に積極的に協力する。

小村　隆祐　Venture Café Tokyo　プログラム・ディレクター



【プロフィール】
Babson College F.W.Olin Graduate School of Business (MBA)。
大学卒業後はメーカー系 IT 企業にて主にマスコミ業界におけるアカウント営業業務や映像伝送に関わるクラウドサービスの立ち上げプロジェクト等に従事。MBA 留学を経た後、グロービスにて人材育成・組織開発コンサルティング部門に参画。大企業の次世代経営者育成やスタートアップの組織開発等を手掛けつつ、起業分野のコンテンツ開発を行う。その後、現職。

武田　直樹　茨城大学社会連携センター　講師（アントレプレナーシップ教育担当）



【プロフィール】
筑波大学社会工学類（都市計画）卒業、教育研究科修了。大手建設会社での企画設計、タイとカンボジアの NGO での国際協力、筑波学院大学でサービスラーニングを担当する講師兼社会力コーディネーターを経て 2021 年４月より現職。NPO 法人フュージョン社会力創造パートナーズ理事長、『旅キャリ』代表。

アントレプレナーシップ人財の育成（茨城大学が育成する人財像）

茨城大学と茨城県が連携し、「いばらきに豊かさを生み出す起業家・社内起業家精神の育成」をテーマにした新たな教育プログラムを、2021 年度から開始しました。
プログラムを通して能力や考え方を身に付けた学生が、茨城県内の企業や地域などに新たな豊かさをもたらすことを目指します。

1. **新たな価値を事業化するための基礎的知識・技能を持った人財**
2. **地域や企業内から新たな価値を見出し、ビジネスによりその価値を高めようとするマインドを持った人財**
3. **失敗を恐れずに新たな価値の創出に挑戦する行動力及び分析力を持った人財**

※本プログラムでは、社会に輩出する学生を地域に貢献する宝だと考え、「人材」ではなく「人財」と表記しております。

女性の地域参画の促進に向けたセミナー
「地域で女性が輝くために～ワーク・ライフ・バランスを考える～」の開催について

社会連携課

７月９日（金）に女性の地域参画の促進に向けたセミナー「地域で女性が輝くために～ワーク・ライフ・バランスを考える～」が茨城大学水戸駅南サテライトにて開催されました。本セミナーは、女性の地域参画の促進について考える機会の提供を目的として、茨城大学社会連携センターと茨城大学ダイバーシティ推進室が主催したもので、昨年度に引き続き２回目の開催となりました。当日は県内企業の社員や自治体職員、本学の教職員、あわせて２８名が参加しました。

本セミナーの前半は、株式会社ユーゴー代表取締役社長・沼崎　周平氏を講師に迎え、社内でのワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みや女性社員の活躍についてご講演いただきました。セミナーの後半は、株式会社文化メディアワークス教育事業部兼管理部部長の山口　佳子氏、茨城県産業戦略部労働政策課副参事の鈴木　麻美氏をパネリストに迎え、働く女性の現状や、茨城県のワーク・ライフ・バランスに関する取り組みなどについてご紹介いただきました後、パネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、木村ダイバーシティ推進室長がファシリテーターを務め、３名の講演等の内容を踏まえ、ワーク・ライフ・バランスの取り組み等について質疑応答や意見交換が行われました。

参加者からは「女性の中で働いてきた時間が長く、改めて、女性の活躍について考える機会がなかなかありませんでした。とてもよい機会となりました。」という感想をいただき、有意義なセミナーとなったことが伺えました。



＜講演の様子：沼崎氏＞



＜パネルディスカッションの様子：左から沼崎氏、山口氏、鈴木氏＞



＜左から木村ダイバーシティ推進室長，鳥羽田理事，
山口氏，沼崎氏，鈴木氏，中村社会連携センター長＞

地域で女性が輝くために

～ワーク・ライフ・バランスを考える～

県内企業のワーク・ライフ・バランス実現のための取り組みや働く女性の現状を紹介し、女性が地域に参画するためにできることについて考えます。



令和３年
7/9（金）

講演者

沼崎　周平氏
(株)ユーゴー　代表取締役社長



パネリスト

山口　佳子氏
(株)文化メディアワークス
教育事業部兼管理部部長



パネリスト

鈴木　麻美氏
茨城県労働政策課
副参事[ワーク・ライフ・バランス]

- 日　時 …… 令和３年７月９日(金)　15:00～16:30 ※開場 14:30
- 参加費 …… 無料
- 定　員 …… 30 名（先着順）
- 開催場所 … 茨城大学水戸駅南サテライト（水戸市桜川 2-2-35　茨城県産業会館２階）

※新型コロナウイルス感染状況によっては、Zoom でのオンライン配信になる場合がございます。
開催方法については、開催の一週間前にメールでお知らせいたします。

申込み

QR コードを読み取り、
申込みフォームに必要事項を入力し、
送信してください。【申込締切】6/30(水)まで

イベントの詳細はこちら
https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/6253.html

主　催 … 茨城大学社会連携センター、茨城大学ダイバーシティ推進室

地域研究・地域連携プロジェクト

令和３年度

No.	事業担当責任者			プロジェクト名
	自治体等	茨城大学		
	連携先	所属・職名	氏名	
1	茨城県農林水産部　農業技術課	農学部・教授	小松﨑　将一	有機農業の普及拡大に向けた地域連携プラットフォーム構築
2	茨城県霞ケ浦環境科学センター	地球・地域環境共創機構・助教	増永　英治	茨城県・茨城大学共同霞ケ浦水循環生体系解明プロジェクト
3	株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント	教育学部・准教授	松村　初	プロバスケットボールチームとの連携によるSTEAM人材育成事業
4	NPO法人日立理科クラブ	理工学研究科・教授	乾　正知	[理数アカデミー]茨城大学特別授業
5	常総市	農学部・講師	高瀬　唯	農をテーマにした交流人口拡大のための新たな景観形成方針の検討
		工学部・助教	一ノ瀬　彩	
		人文社会科学部・教授	伊藤　哲司	
6	阿見町　町民生活部　町民活動課	全学教育機構・准教授	瀬尾　匡輝	地域の国際化を考える
		農学部・准教授	坂上　伸生	
7	茨城町　生活経済部　農業政策課	農学部・教授	成澤　才彦	露地栽培農産物のチャレンジ実証プロジェクト
8	水戸黄門漫遊マラソン実行委員会事務局	人文社会科学部・教授	田中　泉	水戸黄門漫遊マラソン開催に伴う，地域への経済波及効果の算出
9	クラブガストロノミー・茨城	人文社会科学部・教授	中田　潤	食と地域社会との交流を題材とした地域活性化に向けた社会実験プロジェクト
		人文社会科学部・准教授	小原　規宏	
10	水戸市　生活環境部　清掃事務所	理工学研究科 都市システム工学専攻・教授	小林　薫	浸出水循環システムによる効果的なpH低下工法の社会実装
11	石岡市役所	人文社会科学部・准教授	川島　佑介	茨城県自治体×茨城大学市民共創教育研究センター円卓会議～研究・教育機関としての大学の協働～
12	一般社団法人 ユニバーサル・ビーチ協会	工学部機械システム工学科・教授	森　善一	ユニバーサルビーチで使用する水陸両用車いすの開発
13	かすみがうら市	地球・地域環境共創機構 水圏環境フィールドステーション 准教授	中里　亮治	かすみがうら市志戸崎地区におけるユスリカ成虫発生量に関する実態調査

学生地域参画プロジェクト

令和３年度

No.	自治体等 連携先	茨城大学 所属・学年	氏名	プロジェクト名
1	大洗町役場	人文社会科学部・３年	坂井　七帆	まなびの輪～大洗における多文化共生～
2	茨城県北ジオパーク推進協議会 株式会社東京地図研究社	理学部・４年	山田　直輝	地質情報活用プロジェクト
3	水郷つくば農業協同組合 阿見小学校 阿見第一小学校 阿見第二小学校 君原小学校 あさひ小学校 本郷小学校 舟島小学校	農学部・３年	柴田　咲季	FES(FoodEducationSupporter) ～食育応援隊～
4	飯富自治実践会 飯富市民センター	人文社会科学部・３年	川上　藍	地域防災・活性化プロジェクト
5	水戸市政策審議室 茨城県土木部管理課 常磐大学	人文社会科学研究科・２年	小泉　準一	SDGsカフェ～地域とともに考えようひとりひとりのゴール～

令和３年度（スタートアップ版）

No.	自治体等 連携先	茨城大学 所属・学年	氏名	プロジェクト名
1	阿見町　町民生活部　生活環境課	農学部・３年	染谷　海	あみ自然大好きプロジェクト ～地域とつながり環境と未来を考える～

茨城でつながろう







学生地域参画プロジェクト
募集開始！〆切5/21

あなたのアイデアで茨城の未来を変えよう！



少子高齢化、人手不足、オンライン化・・・こんな時こそ
地域や人と繋がりましょう！
大学生の斬新なアイデアで茨城を活性化しませんか？

君たちのアイデアに最大**20万円**
支援します

4/28（水）に応募に関する説明会を行います。
詳しくは社会連携センターHPをご覧ください▶▶▶

✿お問い合わせ先✿
社会連携課 地域連携グループ（chiikirenkei@ml.ibaraki.ac.jp）

令和３年度

茨大生の地域活動発表会

学生が地域と連携してできること。
地域課題の解決や地域活性化に向けて取り組んだ学生が、活動の成果を報告します。



開催日	令和４年　３月 11 日（金）　15：00～17：00
開催方法	Zoom
参加費	無料
プログラム	●プログラム 15:00　開会挨拶 15:05　活動団体による発表 16:50　講評 16:55　閉会挨拶 ●活動団体（各団体 10 分発表） 15:05～　まなびの輪～大洗における多文化共生～ 15:15～　地質情報活用プロジェクト 15:25～　FES(Food Education Supporter)～食育応援隊～ 15:35～　地域防災・活性化プロジェクト 15:45～　SDGｓカフェ～地域とともに考えようひとりひとりのゴール～ 15:55～　あみ自然大好きプロジェクト～地域とつながり環境と未来を考える～ 16:05～　観光で地域資源の活性化を考える（PBL 授業１団体、iOP２団体） 16:35～　アントレプレナーシップ型インターンシップ
主催	茨城大学 社会連携センター
問合せ先	茨城大学 社会連携課 地域連携グループ TEL:029-228-8585 E-mail:chiikirenkei@ml.ibaraki.ac.jp

【資料１０】

令和３年度

情報処理エンジニア育成セミナー

産業の情報化が急激に進む中、高度な IT 知識を持つ人材の需要は日に日に高まっています。
茨城大学では、茨城県と連携して情報処理エンジニアを育成するセミナーを開催いたします。
大学教員から専門知識を学びながら、IT エンジニアの登竜門とされる「基本情報技術者試験」の試験対策も行う、充実の内容となっています。

開催日時

令和３年
9/4(土) 5(日) 11(土) 12(日)
10:00~16:00

場　所

茨城県水戸市文京 2-1-1
茨城大学社会連携センター３階研修室
（当日、会場にお越しいただくことができない方には、後日オンラインによるアーカイブ配信も行います）

対　象

「基本情報技術者試験」の受験を考えている方は誰でも歓迎いたします！

- IT 知識を学んでいて、さらに力を伸ばしたい方
- 試験対策だけにとどまらず、理論や学術的な内容を学びたい方
- IT 企業を志望する学生や、IT 企業にお勤めの若手社員の方　など…

定　員

40名（先着順）

受講料

無料

申込方法

QR コードからお申し込みください。

URL https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/professional_courses/joho2021

応募締切

令和３年 8月22日(日)

問合せ先

茨城大学社会連携センター
☎029-228-8413

注意事項

※講演の模様は録画してアーカイブを一定期間配信しますので、当日ご都合が悪い方も参加頂けます。なお、アーカイブ配信を視聴するためにも、申込みが必要です。アーカイブ配信に定員はございません。
※会場で参加する方はできる限り公共交通機関をご利用ください。公共交通機関の利用が困難な場合に限り、駐車場の利用が可能です。
※昼食は各自ご用意ください。
※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況により、開催方法等を変更する場合があります。

茨城大学 Ibaraki University　茨城県　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

主催
茨城県・茨城大学

受講推奨レベル

疑似言語について、基礎的な知識を身に付けていること。
具体的には、以下のような記述形式を理解できる程度の知識を推奨します。

【宣言，注釈及び処理】

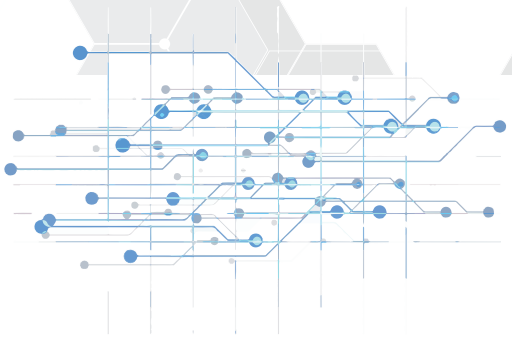
記述形式		説　明
	○	手続，変数などの名前，型などを宣言する。
	/* 文 */	文に注釈を記述する。
処理	・変数 ← 式	変数に式の値を代入する。
	・手続（引数，…）	手続を呼び出し，引数を受け渡す。
	条件式 処理	単岐選択処理を示す。 条件式が真のときは処理を実行する。
	条件式 処理1 処理2	双岐選択処理を示す。 条件式が真のときは処理1を実行し，偽のときは処理2を実行する。
	条件式 処理	前判定繰返し処理を示す。 条件式が真の間，処理を繰り返し実行する。
	処理 条件式	後判定繰返し処理を示す。 処理を実行し，条件式が真の間，処理を繰り返し実行する。
	変数：初期値，条件式，増分 処理	繰返し処理を示す。 開始時点で変数に初期値（式で与えられる）が格納され，条件式が真の間，処理を繰り返す。 また，繰り返すごとに，変数に増分（式で与えられる）を加える。

【演算子と優先順位】

演算の種類	演算子	優先順位
単項演算	＋，－，not	高
乗除演算	×，÷，％	↑
加減演算	＋，－	↓
関係演算	＞，＜，≧，≦，＝，≠	
論理積	and	
論理和	or	低

注記）整数同士の徐算では，整数の商を結果として返す。
％演算子は，剰余算を表す。

【論理型の定数】　true，false



出典）令和元年度 秋期　基本情報技術者試験 午後 問題

講義スケジュール

午前の部【理論編】　10：00 ～ 12：00　茨城大学工学部情報工学科　佐々木稔 准教授
休　憩　12：00 ～ 13：00
午後の部【問題演習編】　13：00 ～ 16：00　茨城県立産業技術短期大学　教員

9月4日(土)　文字列検索アルゴリズム

午前の部

ナイーブ法、Bitap 法、KMP 法、BM 法等の講義

文字列探索とはある文字列と調べたいパターンが与えられたときに、文字列中に出現するパターンの位置を出力するアルゴリズムです。本講義では、この文字列探索アルゴリズムとして、力任せですが分かりやすいナイーブ法、文字の位置をスキップして比較回数を減らす KMP 法と BM 法、あいまい検索にも利用可能なビット演算を用いた Bitap 法などを紹介します。

午後の部

2019（秋）問題８（Bitap法）
2015（秋）問題８（BM法）

9月5日(日)　文字列圧縮アルゴリズム

午前の部

ランレングス圧縮、ハフマン符号圧縮等の講義

ネットワークを介して大量のデータをやり取りするとき、通信量や記憶容量を低減するために、データ圧縮・伸長技術が使われています。本講義では、データ圧縮のための符号理論を紹介します。代表的な符号化の方法であるシャノン・ファノ符号やハフマン符号、FAX で使われる符号化方法であるランレングス符号を紹介します。

午後の部

2019（春）問題８
（ハフマン符号圧縮）
2013（秋）問題８
（独自圧縮アルゴリズム）

9月11日(土)　ソートアルゴリズム（基本編）

午前の部

各種ソートに関する講義

ソートとは、データが与えられたときに、大小関係の順序にしたがって並び替えた結果を出力することです。このソートは情報処理におけるデータ分析の基本で、試験の結果を並び替えて合格者を出す場合や住所録のデータを名前順に整列する場合に行われます。本講義では、数多くあるソートアルゴリズムの中から、比較的分かりやすい選択ソート、挿入ソートとバブルソートと木構造を使って並び替えを行うヒープソートを紹介します。

午後の部

2007（春）問題８
（挿入ソート）
2018（春）問題８
（ヒープソート）

9月12日(日)　ソートアルゴリズム（応用編）

午前の部

情報処理エンジニアに必要となるその他アルゴリズムに関する講義

本講義ではソートアルゴリズムの中から、マージソートとクイックソートを紹介します。マージソートはデータを細かく分割し、並び替えを繰り返し行いながらマージ（併合）してソートを行います。クイックソートはデータから基準値を定めて大きいグループと小さいグループに分けて並び替えを行います。前の回の講義で紹介するアルゴリズムと処理速度を比較することで、これらの方法が高速だと実感できます。

午後の部

2010（春）問題８
（マージソート）
2015（春）問題８
（クイックソート）

好評につき追加開催

令和3年度

情報処理エンジニア育成セミナー

産業の情報化が急激に進む中、高度な IT 知識を持つ人材の需要は日に日に高まっています。
茨城大学では、茨城県と連携して情報処理エンジニアを育成するセミナーを開催いたします。
大学教員から専門知識を学びながら、IT エンジニアの登竜門とされる「基本情報技術者試験」の試験対策も行う、充実の内容となっています。

公開期間

令和３年 12/17(金) ～ 令和４年 1/16(日)

開催方法

オンデマンド配信（ご自宅等で受講いただけます）

対　象

「基本情報技術者試験」の受験を考えている方は誰でも歓迎いたします！

- IT 知識を学んでいて、さらに力を伸ばしたい方
- 試験対策だけにとどまらず、理論や学術的な内容を学びたい方
- IT 企業を志望する学生や、IT 企業にお勤めの若手社員の方　など…

注意事項
本セミナーは、令和3年9月17日～10月31日に配信したものと、同じ内容です。

定　員
300名（先着順）

受講料
無料

申込方法
QR コードから
お申し込みください。
URL https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/professional_courses-2/joho2021-2

応募締切
令和３年 12月12日(日)

問合せ先
茨城大学社会連携センター
☎029-228-8413

茨城大学 Ibaraki University
茨城県
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

主催
茨城県・茨城大学

受講推奨レベル

疑似言語について、基礎的な知識を身に付けていること。
具体的には、以下のような記述形式を理解できる程度の知識を推奨します。

【宣言，注釈及び処理】

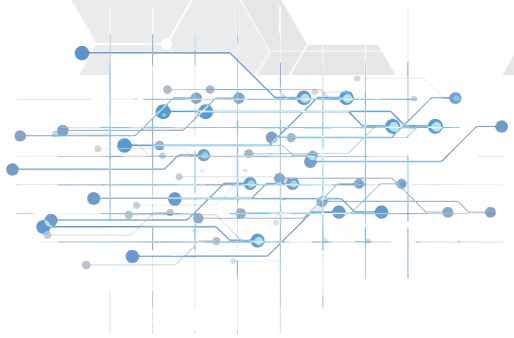
記述形式		説　明
	○	手続，変数などの名前，型などを宣言する。
	/* 文 */	文に注釈を記述する。
処理	・変数 ← 式	変数に式の値を代入する。
	・手続（引数，…）	手続を呼び出し，引数を受け渡す。
	条件式 処理	単岐選択処理を示す。 条件式が真のときは処理を実行する。
	条件式 処理1 処理2	双岐選択処理を示す。 条件式が真のときは処理1を実行し，偽のときは処理2を実行する。
	条件式 処理	前判定繰返し処理を示す。 条件式が真の間，処理を繰り返し実行する。
	処理 条件式	後判定繰返し処理を示す。 処理を実行し，条件式が真の間，処理を繰り返し実行する。
	変数：初期値，条件式，増分 処理	繰返し処理を示す。 開始時点で変数に初期値（式で与えられる）が格納され，条件式が真の間，処理を繰り返す。 また，繰り返すごとに，変数に増分（式で与えられる）を加える。

【演算子と優先順位】

演算の種類	演算子	優先順位
単項演算	＋，－，not	高
乗除演算	×，÷，%	↑
加減演算	＋，－	↓
関係演算	＞，＜，≧，≦，＝，≠	
論理積	and	
論理和	or	低

注記）整数同士の徐算では，整数の商を結果として返す。
%演算子は，剰余算を表す。

【論理型の定数】 true，false



出典）令和元年度 秋期　基本情報技術者試験 午後 問題

講義内容

【理　論　編】茨城大学工学部情報工学科　佐々木稔 准教授
【問題演習編】茨城県立産業技術短期大学　教員

理　論　編

文字列検索アルゴリズム

ナイーブ法、Bitap 法、KMP 法、BM 法等の講義
文字列探索とはある文字列と調べたいパターンが与えられたときに、文字列中に出現するパターンの位置を出力するアルゴリズムです。本講義では、この文字列探索アルゴリズムとして、力任せですが分かりやすいナイーブ法、文字の位置をスキップして比較回数を減らす KMP 法と BM 法、あいまい検索にも利用可能なビット演算を用いた Bitap 法などを紹介します。

文字列圧縮アルゴリズム

ランレングス圧縮、ハフマン符号圧縮等の講義
ネットワークを介して大量のデータをやり取りするとき、通信量や記憶容量を低減するために、データ圧縮・伸長技術が使われています。本講義では、データ圧縮のための符号理論を紹介します。代表的な符号化の方法であるシャノン・ファノ符号やハフマン符号、FAX で使われる符号化方法であるランレングス符号を紹介します。

ソートアルゴリズム（基本編）

各種ソートに関する講義
ソートとは、データが与えられたときに、大小関係の順序にしたがって並び替えた結果を出力することです。このソートは情報処理におけるデータ分析の基本で、試験の結果を並び替えて合格者を出す場合や住所録のデータを名前順に整列する場合に行われます。本講義では、数多くあるソートアルゴリズムの中から、比較的分かりやすい選択ソート、挿入ソートとバブルソートと木構造を使って並び替えを行うヒープソートを紹介します。

ソートアルゴリズム（応用編）

情報処理エンジニアに必要となるその他アルゴリズムに関する講義
本講義ではソートアルゴリズムの中から、マージソートとクイックソートを紹介します。マージソートはデータを細かく分割し、並び替えを繰り返し行いながらマージ（併合）してソートを行います。クイックソートはデータから基準値を定めて大きいグループと小さいグループに分けて並び替えを行います。前の回の講義で紹介するアルゴリズムと処理速度を比較することで、これらの方法が高速だと実感できます。

問題演習編

文字列検索アルゴリズム	文字列圧縮アルゴリズム	ソートアルゴリズム（基本編）	ソートアルゴリズム（応用編）
2019（秋）問題８（Bitap法） 2015（秋）問題８（BM法）	2019（春）問題８ （ハフマン符号圧縮） 2013（秋）問題８ （独自圧縮アルゴリズム）	2007（春）問題４ （挿入ソート） 2018（春）問題８ （ヒープソート）	2010（春）問題８ （マージソート） 2015（春）問題８ （クイックソート）

茨城大学リカレント教育

令和３年度

多文化理解パートナー育成講座

～茨城の多文化共生を考える～

2019 年 4 月の出入国管理及び難民認定法の改正を受け、今後ますます在留外国人数が増加することが予想されています。特に、茨城県はすでに１０番目に在留外国人が多く、国際化に対応するため、互いの文化的、社会的背景への知識を広げ、理解を深めることや、多文化共生に関する問題を解決していくことは急務であると言えます。しかしながら、私たちは外国にルーツを持つ人々を自分達の地域に受け入れる知識や経験を十分に持っていると言えるでしょうか？

本講座では、まず日本国内と茨城県内の在留外国人を取り巻く状況について理解を深め、その後外国人児童・生徒、在留外国人の支援について学んでいきます。そして、多様な背景を持った人々が暮らすコミュニティにおいて、「私たち」に何ができるのかを考え、実際に行動がとれるようになることを目指します。

実施期間
2021年
10月2日(土)～11月20日(土)
Zoomを用いたライブ配信
（一部ライブを録画し、オンデマンド配信）

受講資格 茨城県内に在住、または通勤・通学している16歳以上の方

受 講 料 無 料

申　　込 茨城大学リカレント教育プログラム・公開講座ホームページ内専用フォーム（専門コース・多文化理解パートナー）よりお申し込みください。（http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/）

定　　員 90名（先着順）

応募締切 2021年 10月14日（木）

問合せ先 茨城大学社会連携センター
（029－228－8413）

公開講座ホームページQRコード

主催：茨城県、茨城大学　後援：茨城県国際交流協会

修了要件

●全 6 回のうち 4 回以上の講義を受講し、アンケートを提出した方には修了証を交付します。なお、No.1・2・4 の講義についてはオンデマンド配信の視聴でも受講いただけます。

●修了者は、茨城県国際交流協会が開設する「多文化共生サポーターバンク」に、「外国人のための地域生活アドバイザー」として登録することができます。「多文化共生サポーターバンク」の詳細については、茨城県国際交流協会のホームページ（https://www.ia-ibaraki.or.jp/s_bank/index.htm）をご覧ください。

●11 ／ 20 の特別企画については、必須ではありませんが、できるだけ受講してください。

【講　義】

No.	日程	時間	講師（敬称略）	内容	オンデマンド配信
1	10月2日（土）	10:30～12:00	●茨城県国際交流協会 ●茨城県警察本部刑事部国際捜査課	茨城県内の在留外国人が巻き込まれているトラブルや、相談事例の多い内容等について説明を聞き、皆さんとともに意見交換を行います。	10月8日（金）～10月15日（金）
2		13:30～15:00	●茨城県県民生活環境部女性活躍・県民協働課 ●東京出入国在留管理局 在留支援部門 ●茨城大学全学教育機構 教授 安龍洙	在留外国人を取り巻く環境として、茨城県や国が行っている取組、大学での留学生等の受け入れ態勢について説明を聞き、皆さんとともに意見交換を行います。	
3	10月17日（日）	10:30～12:00	●ひたちなか市国際交流協会 理事 仙波美哉子 ●多文化共生グループおみたまじん 代表 羽鳥愛 ●まなびの輪 顧問（茨城大学人文社会科学部 准教授）横溝環	地域において実際に在留外国人の支援にあたっている方々とともに意見交換を行います。	—
4		13:30～15:00	●茨城NPOセンター・コモンズ 代表理事 横田能洋	茨城県内で外国をルーツに持つ児童や生徒に向けてサポートを行っている団体の代表者から、団体の概要や現在抱えている課題について説明を聞き、皆さんとともに意見交換を行います。	10月22日（金）～10月29日（金）
5	10月30日（土）	10:00～12:00	●茨城大学全学教育機構 教授 八若壽美子 ●茨城大学全学教育機構 講師 青木香代子	多文化共生に関するワークショップを前半・後半1時間ずつ行います。	—
6		13:30～15:00	●茨城大学全学教育機構 准教授 瀬尾匡輝	ワールドカフェ形式にて多文化共生社会で「私たち」に何ができるかを考えます。	—

※ オンデマンド配信期間は、前後する場合がございます。

特別企画

日程	時間	企画名	内容
11月20日（土）	13:30～16:00	映画『バベルの学校』上映会	フランスに移民してきたばかりの子どもたちを対象にした国際学級を1年間追ったドキュメンタリー映画『バベルの学校』を視聴し、意見交換を行います。

※ インターネット回線等の関係で映像がスムーズに流れない場合がございます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

受講対象
高校生～

IBARAKI eco STYLE いばらきエコスタイル

令和3年度
茨城エコ・カレッジ
（体験コース）

受講生募集！

公開期間
令和3年
10月7日(木)～11月15日(月)

環境問題についての興味を持ち，環境保全活動を進んで実践するリーダーを養成するため，
茨城エコ・カレッジを開講します。
地球・地域，そして生活空間規模の問題やこれらに対する適応策等について，
大学教員による講義を通じて楽しく学びましょう。

開催方法　オンデマンド配信（ご自宅等で受講いただけます。）

- 定　　員：100名（先着順）　受講費無料
- 受講資格：茨城県内に在住、又は通勤・通学している高校生以上の方
- 申　　込：茨城大学リカレント教育プログラム・公開講座ホームページ内、専用フォーム（専門コース）よりお申込みください。
  （http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/）
- 応募締切：令和3年10月31日（日）
- 主　　催：茨城県・茨城大学
- 問合せ先：茨城大学社会連携センター
  （029-228-8413）

～注意事項～

※すべての講義がオンライン配信となります。動画を視聴可能なパソコン等が必要となりますので，ご注意ください。
※申し込み後，動画視聴ページにアクセスするためのパスワードをお送りいたします。パスワードがないと講義が受講できませんので，茨城大学社会連携センターからのメールは受信できるよう設定をお願いします。
※パソコン等で一部対応していない機種・OS等がございます。機器の問題等で受講できなかった場合は，本センターでは一切責任を負うことができませんので，ご了承ください。

令和3年度茨城エコ・カレッジ(体験コース) カリキュラム

修了要件：以下の①かつ②の要件を満たした受講者には、茨城県知事及び茨城大学長連名の茨城エコ・カレッジ2021(体験コース)修了証を交付します。茨城エコ・カレッジ2021(体験コース)を修了した受講者は、「茨城県地球温暖化防止活動推進員」に申し込むことができる資格が得られます。「茨城県地球温暖化防止活動推進員」の詳細については、茨城県ホームページ(http://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kansei/chikyu/ondanka-suishin.html)をご覧ください。

①【講義】 No.1～9の中から合計6講義以上を受講する必要があります。(レポート提出必須)
推奨講義については、必須ではありませんが、できるだけ受講してください。

②レポートを提出する必要があります。

※2021年以前に本事業を修了した方は申込できません。また、以前本事業を修了できなかった方は申込することはできますが、以前一部受講した講義があっても今回の講義との代替はできません。

【講義】動画公開期間 令和3年10月7日(木)～11月15日(月)

No.	動画時間	SDGs分野	講義名	講師(茨城大学教員)
推奨	30分	ガイダンス（6. 水・衛生，11. 都市，13. 気候変動，15. 陸上資源）	受講ガイダンス／環境問題を横串を通して見てみよう	藤田　昌史
推奨	30分	総論（6. 水・衛生，11. 都市，13. 気候変動，15. 陸上資源）	太平洋小島嶼の環境問題	藤田　昌史
1	60分	15. 陸上資源，14. 海洋資源，11. 都市，10. 不平等	SDGsを学ぶ前に、生物資源について考えてみる	阿部 信一郎
2	60分	13. 気候変動，15. 陸上資源，11. 都市	茨城県を対象とした環境保全のためのセンシング技術	桑原　祐史
3	60分	12. 生産・消費，7. エネルギー，1. 貧困，10. 不平等	ファッションと循環型社会	木村 美智子
4	60分	17. 実施手段，6. 水・衛生，12. 生産・消費，10. 不平等	環境 NPO・NGOの可能性～市民が守り、市民が創る環境～	原口　弥生
5	60分	13. 気候変動，12. 生産・消費，2. 飢餓	農耕地土壌における炭素と窒素の動態と作物生産	浅木　直美
6	60分	6. 水・衛生，4. 教育，13. 気候変動，17. 実施手段	Web GISを駆使して茨城を眺めてみよう！	伊藤　孝
7	60分	15. 陸上資源	霞ヶ浦に生息する生物群集の長期変化とそれらの理由について	中里　亮治
8	60分	11. 都市，13. 気候変動，15. 陸上資源	自然災害と適応策～環境問題と脱炭素化社会への変革に向けて～	小林　薫
9	60分	13. 気候変動，12. 生産・消費，7. エネルギー，3. 健康・福祉	21世紀の地球環境を考える	三村　信男

【環境保全活動フィールドワーク】実施日 令和3年11月6日(土) 13:30～14:30

No.	時間	環境保全活動フィールドワーク	フィールドワーク定員	場所
1	60分	身近な水質を見てみよう！～千波湖でのピオトープと水質の調査を通して環境を考える～	30名(先着順)	千波湖（詳細はホームページをご確認下さい。）

※天候や世情を鑑み、フィールドワークを中止する場合がございます。

※SDGsの分野について(以下の17分野より講師が講義内容に近い順に上記表に例示)



茨城大学リカレント教育公開講座　2021 年度後期

茨城大学
Ibaraki University

受講生募集

茨城大学リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに，　人材育成を通じた地域創生をめざします。

① 公開講座に応募
(Web からお申し込みいただけます)

・応募は先着順です。
　受講不可となった場合のみご連絡を差し上げます。

・申込期限までにご連絡がない場合，
　受講決定となります。

② 受講案内のメールを送信します。

・応募者が少ない場合，中止になる場合があります。
　その場合，応募された方へ
　別途ご連絡差し上げます。

・メールが受講日 3 日前までに届かない場合は
　ご連絡ください。



【問い合わせ】
茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center
電話番号：029-228-8413

<お申し込み方法>

ホームページ　https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp
お申し込み　https://forms.office.com/r/5WLP7NuVx2

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，窓口での受付は行っておりません。
　また，電話での受付も行っておりません。

〈HP　QR コード〉

キャッシュレスを活用しよう！
【 水戸・初心者向け 】

【講義概要】
コロナ禍の下現金を使わずにクレジットカードや電子マネー，スマートフォンで買い物をする「キャッシュレス決済」が注目され一段と活用されています。
ただ何となく分かり難かったり，いざ利用するとなると不安を覚えることはないでしょうか。
様々なキャッシュレス決済の基礎知識や注意点，活用法などについて，
茨城県金融広報委員会（事務局：日本銀行水戸事務所）が派遣する金融広報アドバイザーがご説明します。

【日程】2021 年 12 月 4 日（土）

【開講時間】10:00～11:30

【開催場所】茨城大学社会連携センター 3 階研修室（水戸キャンパス）

【担当講師】青木 祐里子（茨城県金融広報委員会 金融広報アドバイザー）
桐原 武文（茨城大学社会連携センター講師）

【受講料】無料

【受講対象】社会人

【回数】1 回

【教科書等】当日資料を配布します。

【募集定員】30 名（先着順）

申込期限
11/28
（日）



<注 意 事 項>

※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
※ 受講希望者が少ない場合，中止になることがあります。
※ 新型コロナウイルス感染症の状況により，
オンラインでの開催に変更する場合があります。
※ メールで連絡しますので，
下記のドメインを受信可能にしてください。
（@vc.ibaraki.ac.jp）

茨城大学社会連携センター

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2 丁目 1 番 1 号
電話番号：029-228-8413
ホームページ：https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp

茨城大学リカレント教育公開講座　2021 年度後期

茨城大学
Ibaraki University

受講生募集

茨城大学リカレント教育とは

社会人の学びなおしニーズに応えるとともに，　人材育成を通じた地域創生をめざします。

① 公開講座に応募
(Web からお申し込みいただけます)

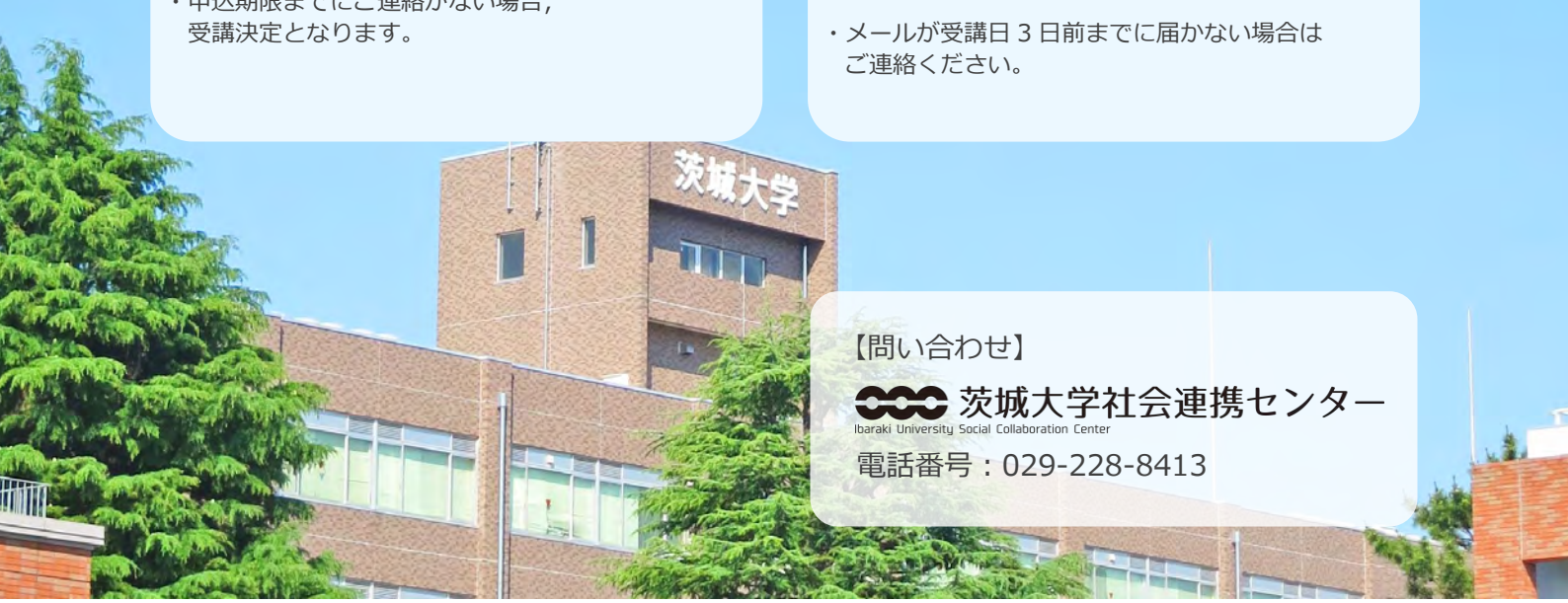
・応募は先着順です。
　受講不可となった場合のみご連絡を差し上げます。

・申込期限までにご連絡がない場合，
　受講決定となります。

② 受講案内のメールを送信します。

・応募者が少ない場合，中止になる場合があります。
　その場合，応募された方へ
　別途ご連絡差し上げます。

・メールが受講日 3 日前までに届かない場合は
　ご連絡ください。



【問い合わせ】
茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center
電話番号：029-228-8413

<お申し込み方法>

ホームページ https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp
お申し込み ホームページ内お申込フォームよりお申込みください。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，窓口での受付は行っておりません。
　また，電話での受付も行っておりません。

〈HP　QR コード〉

水戸ホーリーホック連携公開講座
～真に地域に愛されるクラブとは

【講義概要】
水戸市を中心とした９市町村をホームタウンに活動するＪリーグクラブ・水戸ホーリーホック。地域に根差した市民クラブとして様々な取組を行っており、地域に対してクラブが提供出来る価値とは？を日々考え活動しています。水戸ホーリーホックが地域の皆様に愛されるクラブとなるための活動実績の振り返り、そして今後動かしていく事業や取り組み、さらにその先の未来に向けてやるべき事とは何かを講座の中で考えたいと思います。

【日程】（初回）2021 年 11 月 28 日（日）10 時スタート：ケーズデンキスタジアム内開催
（2 回目）2021 年 12 月　4 日（土）13 時スタート：茨城大学内開催

【開講時間】初回 60 分＋試合観戦、２回目 90 分（予定）

【開催場所】（初回）ケーズデンキスタジアム水戸
（2 回目）茨城大学社会連携センター３階研修室（水戸キャンパス）

【担当講師】小島　耕　様（株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック　代表取締役社長）
百武　慶文（理工学研究科理学野・准教授）

【受講対象】社会人、大学生、高校生

【受講料】無料

【募集定員】20 名

※詳しい内容はホームページをご覧下さい。
申込後、詳細のメールが届きます。(11 月 24 日頃送信予定)



<注 意 事 項>

※ 講座の日程等に変更が生じる場合があります。
※ 受講希望者が少ない場合，中止になることがあります。
※ 新型コロナウイルス感染症の状況により，
　オンラインでの開催に変更する場合があります。
※ メールで連絡しますので，
　下記のドメインを受信可能にしてください。
　（@vc.ibaraki.ac.jp）

茨城大学社会連携センター

〒310-8512 茨城県水戸市文京２丁目１番１号
電話番号：029-228-8413
ホームページ：https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp

令和 4 年 1 月 12 日
社会連携センター

令和 3 年度茨城大学社会人リカレント教育全体についての実績報告（12 月時点）

茨城大学社会人向け「リカレント教育」は以下の「公開講座・公開授業（オープンコース）」・「専門コース・カスタムコース」で構成されており，令和 3 年度は以下とおり事業を実施した。

各コースの実績

・公開講座・公開授業（オープンコース）・・・誰でも 1 科目単位で自由に学べるコース

＜令和 3 年度の実績＞

→全公開授業の開講を中止。（COVID-19 対応のため。）

→公開講座については，5 講座を開講。

・実施講座（以下以外に他 2 講座を開講）

令和 3 年度情報処理エンジニア育成セミナー（参加者：132 名，好評につき，追加開催）

令和 3 年度多文化理解パートナー育成講座～茨城の多文化共生を考える～（参加者：92 名）

令和 3 年度茨城エコ・カレッジ（体験コース）　（参加者：114 名）

・専門コース・・・専門分野のエッセンスを複数の科目を受講して学ぶコース

＜令和 3 年度の実績＞

→ 令和 4 年度以降の開講に向け，検討中。

・カスタムコース・・・企業や自治体、団体等の要望に応じて人材育成のプログラムをカスタマイズして提供するコース

＜令和 3 年度の実績＞

令和 3 年度→参加企業・団体及び参加人数は以下の通り（令和 3 年度受講者合計→計 37 名）

前期：関彰商事株式会社 8 名，株式会社サザコーヒー 5 名

後期：関彰商事株式会社 12 名，株式会社サザコーヒー 4 名，那珂市 2 名，水戸ヤクルト販売株式会社 2 名，ダイドードリンコ株式会社 4 名

◎　本年度より，専門コース及びカスタムコースの受講者は，身分について学内規則を整備したことにより，自宅や職場等でも授業が受けられるようになった。（オンラインへの対応）

◎　後期よりダイドードリンコ株式会社が新しくリカレント教育プログラムカスタムコースへ参加。

令和 3 年度のリカレント教育プログラム全体について

公開講座・公開授業については，COVID-19 の影響により開講が難しい状況が続いているが，専門コース及びカスタムコースについては，受講者が自宅や職場等でも授業が受けられるようになったことで，感染対策と事業継続の両立が可能となった。また，12 月 15 日（水）に「いばらき社会人リカレント教育懇談会」を実施した。

いばらき社会人リカレント教育懇談会

・**いばらき社会人リカレント教育懇談会**・・・社会人リカレント教育を進めることに賛同する企業や自治体等と連携し、社会人等の多様なニーズに対応した体系的な教育、学習機会の提供を促進することにより、茨城県を中心とした産業の発展や地域振興に寄与することを目的とする会である。

＜令和 3 年度の実績＞

→参加団体：12 団体（欠席 1 団体）　内訳：自治体 5，民間企業 7（欠席：自治体 1）

・リカレント教育プログラムの企業・団体実務担当者及び自治体の担当者が参加し，「今後リカレント教育に求められていることはなにか」について，本学のリカレント教育に関する取り組みを報告しつつ，意見交換を行った。また，本年度からリカレント教育カスタムコースに参加したダイドードリンコ株式会社様から参加後の社内変化等について，報告していただいた。

＜本懇談会での意見例＞

参加企業：本プログラムに参加したことで，さまざまな気づきとともに，学ぶことが多く，参加して良かったと感じている。現在，DX・SDGs 等の推進を当社では行っているが，是非これらを学ぶことのできるような科目を増やしていただきたい。

参加団体：政策課題解決につながる人財育成をしたいと考えている。この人財育成につながる科目を提供していただきたい。

→現在のプログラムに満足しているものの，さらなる「提供科目の充実」を要望している。

【資料１１】

「未来への懸け橋　学びの創造プロジェクト　コンソーシアム」





2021年（第７期生）

いばらき子ども大学



小学４・５・６年生の「子ども大学生」を募集します！













子ども大学とは・・・？？

茨城県教育委員会，大学，県内NPO法人・企業や市町村等と実行委員会を組織し，県内全域の小学校４年生から６年生を対象に，子どもたちの好奇心に応え，知的な世界を開くため，大学の先生や専門家が学校では学べない分野をわかりやすくかつ体系的に教える機会と場を提供するものです。
県内各地域にキャンパスを設置し，学校の枠を超え，たくさんの仲間と出会い，たくさんの知識を学ぶ機会を与えます！

新型コロナウィルス感染症及び天候等の事情により，授業内容・日程の変更，または講師の都合により中止となることがあります。
詳細は裏面問い合わせ先までご連絡ください。

【主　催】　いばらき子ども大学実行委員会　茨城県教育委員会　茨城大学

県央キャンパス

～気になる世界へ飛び込もう！
『見て・触れて・楽しむ』学びの場～

第1回 洋菓子の世界 ～パティシエの取り組み～

県内には多くの技術を持ったたくさんの菓子職人がいます。
パティシエになる夢を叶え，菓子を通して様々な地域貢献に取り組む職人の話を聞いてみよう。



11月6日(土) 14：00～16：00

会場：茨城大学　人文講義10番教室
講師：洋風笠間菓子グリュイエール　代表取締役　根本 高行 氏

第2回 世界遺産について学ぼう

世界遺産とは，世界中の人々が守っていかなくてはならない価値のある自然や歴史ある宝物のことです。そもそも世界遺産はなぜ価値があるのでしょうか。そして，なぜ世界中人々で守っていかなくてはならないのでしょうか？授業を通して一緒に考えてみましょう。

11月20日(土) 10：00～12：00

会場：茨城大学　人文講義10番教室
講師：世界遺産マイスター　筬島 大悟 先生



第3回 BI昇格を成し遂げた茨城ロボッツスポーツを通した地域創生について



12月11日(土) 10：00～12：00

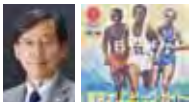
会場：茨城大学　人文講義10番教室
講師：株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント
代表取締役社長 川﨑 篤之 氏

第4回 クイズで学ぼう，東京オリンピック･パラリンピック

1年延期された東京オリンピック・パラリンピック。どんな大会だったのか，振り返って学んでみよう。

1月8日(土) 10：00～12：00

会場：笠間市立友部公民館　大ホール
講師：筑波大学 真田　久 特命教授



第5回 チバニアンから学ぶ地球の歴史

初めて日本の地名が地球の歴史に刻まれることになった「チバニアン」。認められる鍵となったのは地層に刻まれた地磁気の逆転でした。いっしょにその謎に迫ってみましょう。

1月22日(土) 14：00～16：00

会場：茨城大学　人文講義10番教室
講師：茨城大学理学部　地球環境科学領域 岡田　誠 教授

最終講義 新型コロナウイルスと，人類の戦い

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い，我々の生活に支障が出ています。
このコロナウイルスの感染症について医師が分かりやすく解説します。
また医療現場で行われている実際の感染症対策について解説し，日常生活において役立つ感染症対策を一緒に学びましょう。

2月（日時・場所　未定）
※詳細は決まり次第追ってご連絡いたします。

講師：筑波大学　医学医療系　感染症内科学　筑波大学附属病院　感染症科 鈴木 広道 教授
筑波大学附属病院　看護部 感染管理認定看護師 堤　徳正 看護師長

【サークル活動の告知】

サークル活動 ロボットプログラミングに挑戦

キーボードにプログラミングをして，車型ロボットを走行させよう。



講師：いばらき子ども
プログラミング講師

サークル活動 Make Future Project
～生きる力をはぐくみ未来をつくる授業～

コミュニケーションとは何か？体を動かしながら行うゲームや簡単な運動を通じて人と人とのコミュニケーションがどのようにスタートし，どのように深まっていくかを体感してもらいます。

講師：フットボールクラブ　水戸ホーリーホック 中川　賀之 氏

【募集要項】

1 募集締切　**定員になり次第締切**
2 募集対象　小学4年生～小学6年生
3 募集人数　80名(応募多数の場合は，抽選となります。)
4 参 加 費　9,000円(運営費・6回分講義料)
5 応募方法　① 申込フォーム（右のQRコードを読み込み，必要事項をご入力ください。）
6 そ の 他　**※ 結果については，申し込みされて1週間程度でご連絡いたします。**
※ お申し込みいただきました個人情報は，本事業のみに使用いたします。
※ お子様の安全を守るため，各授業には，保護者の送迎でご参加ください。

Facebookもチェック
いばらき子ども大学　検索

【問い合わせ先】
いばらき子ども大学
県央キャンパス事務局
（本部事務局）担当／後藤・沼田
TEL：029-233-5200
TEL：080-7793-4538
（担当直通）
E-MAIL：kodomo.kenou@gmail.com

授業について，ご不明点がございます場合は，お気軽にお問い合わせください。

参加：無料

社会教育等関係者の研修にもオススメ！

Design to Next Ⅲ

つながり、拓かれる生涯学習・社会教育

対象 学びを通じた地域の課題解決に関心がある方（誰でも参加できます！）

第1部 基調講演等

開催方法	オンライン（オンデマンド配信）
配信期間	**令和３年10月１日（金）～11月30日（火）**
演題	「社会教育とコミュニティデザイン ～これからの時代の人のつながりとは～」
講師	studio-L代表　山崎　亮 氏

第2部 事例発表等

開催方法	オンライン（同時双方向通信）
開催日程	**令和３年10月16日（土）** **12:30～オープニング** **13:00～事例発表　17:00～クロージング** **17:15　終了**

第7回 関東近県 生涯学習・社会教育 実践研究交流会

共催	茨城県教育委員会、茨城大学、茨城県生涯学習・社会教育研究会
主管	関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
協賛	NPO法人ひと・まちねっとわーく、NPO法人インパクト NPO法人日本スポーツ振興協会 （公財）茨城県教育財団、（公財）日本教育公務員弘済会茨城支部
後援	福島県教育委員会、栃木県教育委員会、群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会 千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、国立青少年教育振興機構 茨城県社会教育委員連絡協議会、茨城県公民館連絡協議会
協力	国立教育政策研究所、茨城県教育庁社会教育主事会



同時代を生きる

私たちは第６回交流会を新型コロナウィルスパンデミックの中で開催しました。休会という選択もある中、「このような時期だからこそ社会教育の価値が問われるのではないか」との思いから、開催することにしたわけです。オンデマンド配信等の新しい方式を採用し、幾度もの変更を重ねながら実施しました。しかし、世界中に広がる新型コロナウィルス感染症はいまだ収束の兆しさえ見せません。再び、本交流会の役割を見定めながらの出発になりました。

世界中の人間が「国境を越えた共通課題」に直面し始めていると感じます。この時代に、地球という環境の中で生きている「同時代性」を実感し始めているのかもしれません。東京オリンピックもまた「同時代性」を表現していたように思えます。「今、ここに、こうしてあることを共感する」契機であり、それが、これからの社会の基底になると考えました。

そこで、第７回交流会は次代を創り続ける「学びの活動」の方向性を探るべく、「つながり、拓かれる生涯学習・社会教育」というテーマを設定することにいたしました。基調講演は「社会教育とコミュニティデザイン～これからの時代の人のつながりとは～」と題し、山崎　亮氏（studio-L代表）にお願いできました（オンデマンド配信）。また、10月16日の「第２部事例発表」は関東近県の12の実践が報告されます。

ＡＩ社会の到来は、急速に私たちの暮らし方を変えつつあります。新型コロナパンデミックは私たちが営んできた「人のつながり」を変えつつあります。この事実にどう対応し、どのような近未来を創造し続けているのか、「社会的学びとつながり」の現在を語り合いたいと思います。

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会
実行委員長／茨城大学　名誉教授　菊池　龍三郎

社会教育実践には、
その一つひとつに物語があります。

－あなたも、その物語に入り込んでみませんか
－あなたも、あなたの物語を考えてみませんか
－あなたとみんなの「幸せ物語」を創ってみませんか

第１部 基調講演等

オンデマンド配信

令和3年10月1日(金)～11月30日(火)



テーマ

「社会教育とコミュニティデザイン
～これからの時代の人のつながりとは～」

講　師　studio-L代表　山崎　亮 氏

プロフィール

studio-L代表。関西学院大学建築学部教授。コミュニティデザイナー。社会福祉士。1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士（工学）。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人達が解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネージメントなどに関するプロジェクトが多い。
著者に『コミュニティデザインの源流』（太田出版）／『縮充する日本』（ＰＨＰ新書）／『地域ごはん日記』（パイインターナショナル）／『ケアするまちのデザイン』（医学書院）

●インタビューダイアローグ　話し手：studio-L代表　山崎　亮 氏
聞き手：常磐大学人間科学部教育学科　助教　松橋 義樹 氏

第２部 事例発表等

同時双方向通信　令和３年10月16日(土)
オープニング 12:30～12:50

第❶分科会　13:00～13:50

A【群 馬 県】障がい者「おうら青年学級」の生涯学習支援活動の取組
～自立した生活と余暇活動の充実を目指して～

邑楽町教育委員会生涯学習課中央公民館　館長・社会教育主事　藤田　和良 氏

B【茨 城 県】「ちくせい若者まちづくり会議」の取組

筑西市人口対策部人口対策課　主任　水越　宣貴 氏
主事　倉持　朋奈 氏

C【茨 城 県】つながるひろがるNAMEGATAの未来
～『どれみ』から始まった子育てサークルのあゆみ～

ママスマイル行方　代表　羽鳥　悦子 氏 他

第❷分科会　14:00～14:50

D【栃 木 県】働き盛り世代を対象とした早朝教養講座　「宮の朝活」の取組

宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課　係長　藤田　直樹 氏

E【千 葉 県】「シビックテック団体との協業事例からみる地域活性化の可能性」

Civic Tech Zen Chiba/Code for NAGAREYAMA　代表　白澤　美幸 氏

※シビックテックとは、シビック（市民）とテック（テクノロジー）をかけあわせた造語であり、市民自身がテクノロジーを活用して、地域課題等を解決する取組のこと

F【茨 城 県】映像作品を公開講座として提供する
「多文化理解パートナー育成講座～茨城の多文化共生を考える～」の実践から

茨城大学全学教育機構国際教育部門　准教授　瀬尾　匡輝 氏

第❸分科会　15:00～15:50

G【国立施設】コロナ禍における青少年教育研究センターの取り組み

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター　企画室総務係員　大西　広海 氏

H【福 島 県】「はなわ探検隊！特産のダリアでふくしまの元気をPR！」
～チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業の活用～

塙町教育委員会生涯学習課　主任主事　松本　静香 氏
〃　学校教育課　主査　中畑　哲 氏

I【茨 城 県】「地域を補う」　～折橋地域活性化ＰＴの活動紹介と問題点～

折橋地域活性化プロジェクトチーム（ＰＴ）　代　表　助川　仁一 氏
副代表　菊池　竹一 氏

第❹分科会　16:00～16:50

J【神奈川県】地域のたからである子どもたちへの学習支援を通してみんなの居場所をつくる

ＮＰＯ法人こども応援丸　理事長　津田　眞利 氏

K【埼 玉 県】地域と連携・協働した教育の推進「おがわ学の実践・構築」
学校と地域の未来を創ろう！プロジェクトの取組

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課　指導主事　岡本　敏明 氏

L【茨 城 県】かすみがうら市リーダース高校生会の取組

かすみがうら市教育委員会生涯学習課　主任主査兼社会教育主事　齋藤　英明 氏

クロージング　17:00～17:15

第７回大会 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会【参加申込書】

ＦＡＸ 029-301-5339

E-mail shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会
事務局（茨城県教育庁総務企画部生涯学習課内）　宛

FAXもしくは、E-mailにて
左記申込先へお申込みください。
※原則、お一人ずつ申し込みが必要ですが、団体での申し込みを希望される際は、ご相談ください。

ふりがな			
氏　名			
所　属		役　職	
連絡先	ＴＥＬ		
	E-mail	※オンライン参加を希望する方は必須	

大会の出欠等　※以下太枠で囲まれた箇所の希望する項目の英数字に○を付けてください。

No.	内　容	期　日	参加方法等	申込締切
1	**第１部** **基調講演等**	令和３年 10月１日(金)～ 11月30日(火)	１．オンライン参加（定員なし） ※YouTubeによるオンデマンド配信 ２．不参加	令和３年 11月１日(月)
2	**第２部** **事例発表等**	令和３年 10月16日(土)	１．オンライン参加(定員300名) ※Zoomによる同時双方向通信 ２．不参加 （１を選択した方は、参加希望事例発表を１つずつ選択） **参加希望事例発表** 第１分科会　13:00～13:50　A　B　C 第２分科会　14:00～14:50　D　E　F 第３分科会　15:00～15:50　G　H　I 第４分科会　16:00～16:50　J　K　L	令和３年 10月１日(金)

※第２部の申込者が定員を超えた際は、抽選となります。抽選の結果は、10月12日(火)迄にE-mailもしくはTELにてご連絡いたします。
※オンライン参加を希望された方に必要な情報は、準備が整いましたら、E-mailにてご連絡いたします。

【参加者の皆様へ】

- 個人情報は、本交流会に関すること以外の目的では使用いたしません。
- 交流会の様子（写真、動画、アンケート内容等）をウェブサイト、オンライン配信、ＳＮＳや報告書等で使用することをご了承ください。
- 第２部事例発表等では、Zoomを用いて、参加者同士の交流の時間をとる予定です。
- 今後、新型コロナウイルス感染症の影響により、大会内容等を変更する可能性があります。（変更した際には、右記ウェブサイト等でお知らせいたします。）

最新情報は、以下QRコードよりご覧ください。

ウェブサイト　フェイスブック

【問合せ先】関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会実行委員会事務局
（茨城県教育庁総務企画部生涯学習課内）　担当：國府田
TEL：029-301-5318　FAX：029-301-5339　E-mail：shogaku1@pref.ibaraki.lg.jp

令和３年度「茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会」報告

1　趣旨

毎年、社会連携センターでは、大学間協定または学部間協定を締結している連携協定先の自治体担当者と近況の報告や意見を交換する場として「実務者間意見交換会」を開催している。

今年度も大学間協定を締結している茨城県並びに県内 10 市町村（阿見町、茨城町、鹿嶋市、高萩市、筑西市、東海村、那珂市、日立市、常陸大宮市及び水戸市）及び学部間協定を締結している県内７市町（石岡市、大洗町、小美玉市、常総市、大子町、常陸太田市及び守谷市）の実務担当者と共に、地域活性化のための連携活動をさらに進めていくための場として意見交換会を開催したい。従来より、学生との交流の場を持ちたいという意見が自治体からあることを踏まえて、今年度は、地域で活動している学生らも参加する。

２　開催方法・日時・場所

開催方法：対面（※新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえでの実施）

日時：令和３年１１月２２日（月）１０：００～１２：００

場所：社会連携センター（研修室，ミーティングルームⅢ，アントレルーム）

３　主催：社会連携センター

4　次第

司会進行：岡山社会連携副センター長

・開会挨拶：中村社会連携センター長

・茨城大学の取組み（IBADAI new STANDARD，イバダイ・ビジョン 2030）

・参加連絡書に記載されたアンケートの承合

（イバダイ・ビジョン 2030 の Action 1 ～ 8 の中で関心が高い項目について）

・３グループに分かれた意見交換会

グループ A「若者の定着・定住」

グループ B「学生が参画するまちづくり、地域活性化事業」

グループ C「SDGs」

・３グループのファシリテーターによる意見交換概要の共有（まとめ）

グループ A：中村社会連携センター長

グループ B：木村社会連携副センター長

グループ C：岡山社会連携副センター長

・閉会

5　報告

本意見交換会には、連携協定先自治体職員 17 名、本学学生 10 名、本学教職員 12 名（うち陪席 6 名）の計 39 名が参加した。今年度は、従来の自治体からの要望を踏まえ、本意見交換会に学生が参加する初めての試みとなった。また、今年度は対面で実施したため、開会前には参加者同士の名刺交換が活発に行われた。（昨年度はオンラインで実施した。）

はじめに、中村センター長から、「本意見交換会は何か結論を出すのではなく、参加者の何らかの気づきになってほしい会である」と挨拶があった。次に、岡山副センター長から、現在の本学の授業の実施方法や施設等の開館情報、IBADAI new STANDARD などの取組みについて紹介があった。

続いて、事前に連携協定先自治体へ送付していたアンケートの承合事項の結果について説明があった。今年度は「イバダイ・ビジョン 2030 の Action 1 ～ 8 の中で関心の高い項目」について調査し、図 1 の結果を紹介した。

その後、3 グループに分かれて意見交換会を行った。今年度は、「若者の定着・定住」「学生が参画するまちづくり、地域活性化事業」「SDGs」をテーマとした。

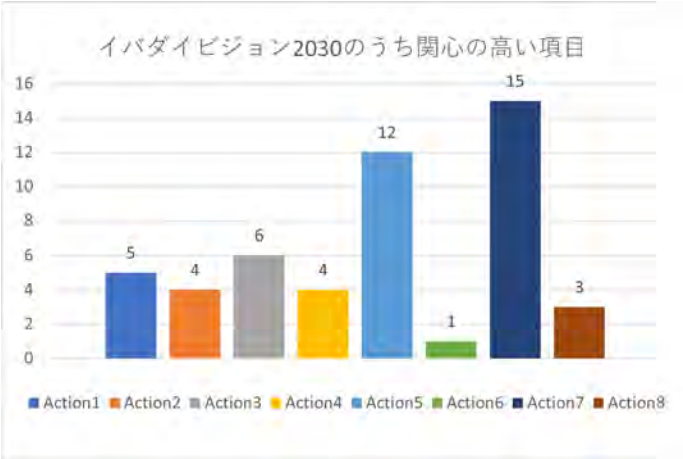
グループ A「若者の定着・定住」では、各自治体の若者の定着・定住に向けての取り組みの紹介があり、学生が気になった自治体の取り組みについて質問する場面もあった。また学生へのイベントの周知方法について意見交換がなされた。また、行政と個人の間に位置する住民同士が繋がって自発的にできた組織を育てていくことが今後重要になっていくのではないかという意見があった。

グループ B「学生が参画するまちづくり、地域活性化事業」では、すでに本学学生が参加している事例として、まなびの輪の学生から活動の紹介があり、それを中心に学生の街づくり活動について議論があった。また、社会連携センターが相談等の窓口となる旨紹介があった。

グループ C「SDGs」では、自治体の SDGs の推進に向けた施策の取組みについて情報交換がなされた。 SDGs は大きな目標だが、17 の目標達成に向けて無理に行動していくより、人々の意識を変えていき、無理なく永続させていくことが大切であるとの観点が共有された。

最後に、3 グループのファシリテーターから意見交換の内容について、参加者全体に共有がなされた。

参加終了後のアンケートでは、自治体の方から「学生の生の声を伺えた貴重な機会となった」との意見が多数寄せられた。また、学生や教職員からも「自治体の取り組みや課題について知ることができた」と高い満足度を得ることができた。本意見交換会は、自治体・学生・教職員が取組んでいる事例や意見を述べ合う、貴重な交流の場となったと言える。また、出席者に何らかの気づきを与えることが出来たのであれば幸いである。



【図１：イバダイ・ビジョン 2030 のうち関心の高い項目】

本アンケートは、本学と連携協定を締結している 18 の自治体の大学との連携窓口担当者に送付し、18 自治体のうち 16 自治体から回答を得た。（複数回答）なお、大学との窓口担当者は、政策企画系やまちづくり推進など、地域づくりに関する業務を担当している方が多い。

アンケートの結果、Action7「研究の知見と構成員の行動力を活かし、地域の住民と共に社会の持続的発展のための活動に取り組みます。」と Action5「産業界や地域社会との連携を強化し、SDGs やカーボンニュートラルを目指す社会の課題解決に向けた研究や研究成果の社会還元を推進します。」に高い関心を示していた。これは、窓口担当者が地域づくりに関する業務を担当しているため、Action7 と Action 5 の関心が高かったと考えられる。しかしながら、Action7 は回答いただいた 16 自治体のうち 15 の自治体から関心が寄せられており、地域連携の重要性が感じられる結果となった。

※イバダイ・ビジョン 2030（https://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/vision/index.html）



<開会挨拶>



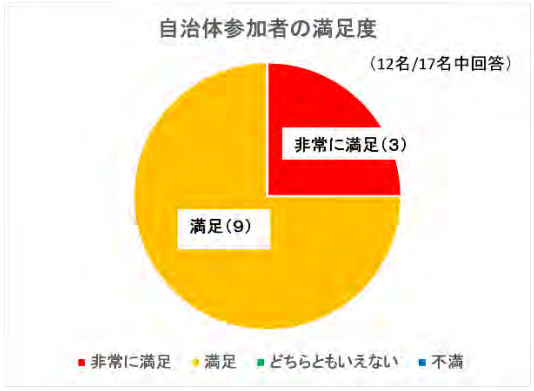
＜承合事項の紹介＞



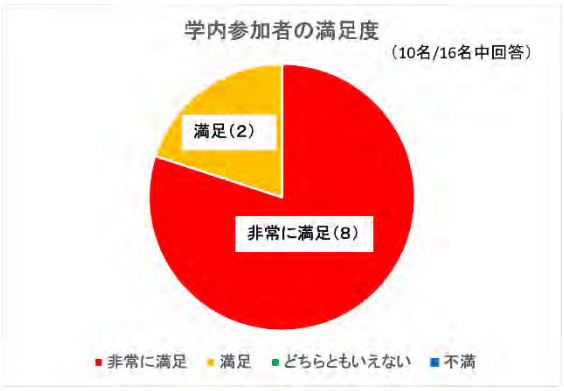
＜グループ A の様子＞



＜グループ C の様子＞



<自治体参加者の満足度>



＜学内参加者の満足度＞

茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会　議事要旨

グループＡ　若者の定着・定住

はじめに、各自治体職員の自己紹介と若者の定着・定住に向けた取り組みの紹介があった。若者の定着・定住に向けて、就職、居住および地元への愛着心の育成の主に３つの観点で、各自治体において様々な事業に取り組んでいることが紹介された。

続いて、参加学生の自己紹介と各自治体の気になった取り組みについて質問があった。学生からは、就職支援のバスツアーの取組みやお試し居住に関すること、ふるさと納税について質問があった。

その後、学生への効果的なイベントの周知方法について、学生に意見を聞いたところ、1人でイベントに参加することはハードルが高いためゼミやサークル、友人等などのグループだと参加しやすいとの意見があった。また、学生は Twitter や Instagram 等の SNS を利用して情報を収集しており、写真や学生が興味を引くデザインなど視覚的な情報が広報するうえで重要であるという意見があった。

最後のまとめでは、行政と個人の間にある、住民同士が繋がってできた自発的な組織を育てていくことで行政の負担が軽減できるのではないかという意見があった。今後も大学として協力できることがあれば、力になりたい。

以上

グループＢ　学生が参画するまちづくり、地域活性化事業（広報活動等も含む）

まず、本学の学生が継続的に参画している地域活性化事業のひとつ、「まなびの輪」の学生及び顧問教員から活動の概要や様子等の紹介がなされた。自治体から学生が参加するきっかけ等についての質問があった。学生としては、参加の意義を自らが感じることや活動に魅力を感じることがきっかけとなり、かつ体制が確立されている（＝活動の姿が見える）ことが後押しとなったという回答があった。

その他、各自治体での取り組みや成功事例についての紹介がなされ、「学生の参加」に関して自治体側が抱える悩み等について意見交換が行われた。総括としては、事業に対して、大学・学生・自治体それぞれが主体的に協力して取り組むことが重要であり、学生のリクルートが課題となっている。学生・教員・自治体を繋ぐハブとして、社会連携センターを、是非活用していただきたい。

※「まなびの輪」は、「令和３年度茨城大学学生地域参画プロジェクト」採択事業の一つ。

以上

グループＣ　　ＳＤＧｓ

はじめに、出席者の自己紹介を行った。
ファシリテーターによる開始後、出席者の自己紹介を行った。蓮井学長特別補佐（SDGs 推進）より、SDGs は目先を変えながら、自分の中や自分の周囲で何を変えるかを考えること、無理なく継続して取り組んでいくことが重要であると説明があった。

次に、各自治体の SDGs の取組み状況について意見交換を行った。参加者からは、SDGs のゴールと各課の業務を関連付けることの難しいさや、どのように SDGs に取り組むか、あるいは予算との兼ね合い等が課題であるとの意見があった。続いて、参加学生が SDGs について考えていることや意識している事について意見を述べた。自治体内や住民に SDGs の浸透を図ることや、金融や中小企業との連携が今後重要になってくるのではないか等のコメントがあった。

蓮井学長特別補佐（SDGs 推進）からは、SDGs は「何かを改めて実行すること」と捉えがちだが、一方で「誰 1 人取り残さないこと」を目標にしているという側面が紹介され、メリットを強調しつつ長い視野で取り組むことでも効果があると説明があった。ゴールの達成だけではなく、一人ひとりの意識を変えていくことが大切であると総括した。

以上

茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会
「グリーン社会の実現と茨城の未来」実施報告

実　　施　　日	令和３年 11 月 17 日（水）　　天気：晴れ
時　　間	１３：３０ ～ １６：００
場　　所	水戸京成ホテル２階　瑠璃の間
司　　会	茨城大学理学部３年　奥村　颯（社会連携センター学生パートナー）
パネリスト発表者	茨城大学副学長（研究・産学官連携）　金野　満　氏 株式会社リグノマテリア代表取締役社長　三浦善司　氏 茨城県政策企画部地域振興課長　松田慧吾　氏
パネルディスカッション進行	茨城大学学長特別補佐（社会連携）・社会連携センター長　中村麻子
参　加　者　数	１２２名 （対面：７５名、オンライン配信視聴：４７名（オンデマンド配信視聴予定含）
アンケート回収数	５３部
資料準備部数	１００部

【実施した効果や今後の対応について】

・終了後に回収したアンケートでは、講演会参加前と後で意識や考えに変化はあったかとの問いに対して、「非常にあった」（20 名）、「少しあった」（22 名）という方が約８０％で、「グリーン社会の実現の過程の中で、本県の課題である県北振興にも寄与するのではないかと感じました。産・官・学の連携した今後の取り組みに大いに期待したいと思います」「「森林における CN の取り組みだけでなく、臨海での取り組みとの互換性、連携について深く考える機会となった」「ムダにエネルギーを消費していることが思い当たるので、今後は、省エネに取り組んでいきたいと思います」などの意見があった。

・講演会の満足度についての問いに対して、「満足」（27 名）及び「やや満足」（17 名）という方が約８６％で「最新の動きが判って良かった」「産・官・学それぞれの立場における考え方や取組を発表頂き、大変参考になりました」「カーボンニュートラル、第６次エネルギー基本計画、グリーン成長戦略の重要性が理解できた」という意見があった。

・今後取り上げて欲しいテーマについては、「デジタルトランスフォーメーションの推進」「企業経営への SDG s の取り込み、ESG 投資」が多く選択されており、最近のトピックに関心が高いことが見て取れた。これらを貴重な意見として、今後の参考にしていきたい。

・講演会参加の前と後で、意識や考えに変化があったと多くの参加者が回答していることがわかり、有意義な講演会になったことがうかがえる。また、プログラムにおいてパネリストの発表時間が短いなどの意見があったため、今後のプログラム設定の参考としたい。

参考：茨城大学ホームページ（エネルギーから見たカーボンニュートラル：2050 年のその先へ）
https://www.ibaraki.ac.jp/news/2021/11/19011431.html

茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会「グリーン社会の実現と茨城の未来」















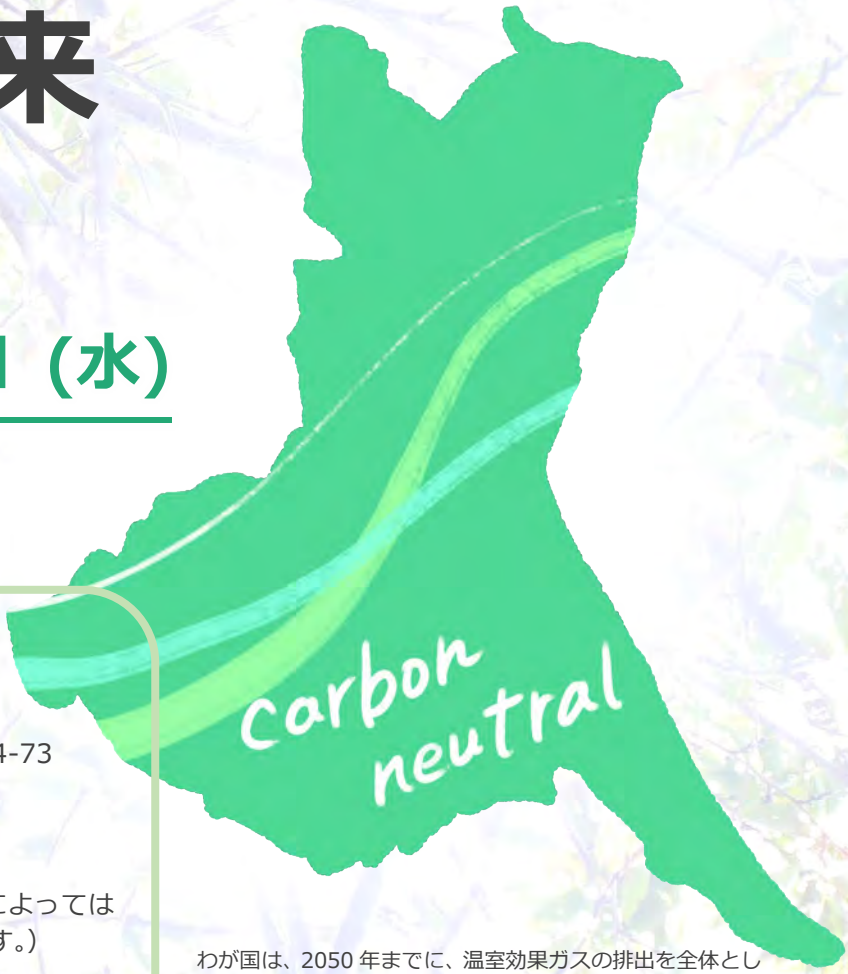






茨城大学・茨城県・茨城産業会議　連携講演会

グリーン社会の実現と茨城の未来



令和３年

11 月 17 日（水）

13：30～15：30

【会　場】

水戸京成ホテル

〒310-0011　茨城県水戸市三の丸１丁目 4-73
TEL　029-266-3111
対面、オンライン同時配信
（後日、オンデマンド配信予定）
（ただし、緊急事態宣言等の発令など状況によっては
オンライン配信のみとなる場合があります。）

【定　員】

対面　先着７５名（オンライン配信　YouTube）

【入場無料】

どなたでもご参加いただけます。
ただし、事前登録者のみとさせていただきます。

【主　催】

茨城大学・茨城県・茨城産業会議

わが国は、2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しています。

茨城県においても、カーボンニュートラルを成長の原動力として、産業競争力の強化や新産業の創出を目指す「カーボンニュートラル産業拠点創出プロジェクト」が今年 5 月に立ち上げられたところですが、社会や経済のグリーン化を進めるにあたり、大学や産業界における取り組みや、茨城県の方向性を各パネリストから紹介していただきます。

本連携講演会では、各パネリストからの発表とともに、大学、産業界及び行政の有識者によるパネルディスカッションを通して、グリーン社会の実現と茨城の未来を一緒に考えていただきたいと思います。

お問い合わせ・お申込み

茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

電話番号：029-228-8585
メール：chiikirenkei@ml.ibaraki.ac.jp
ホームページ：https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/6961.html/

プログラム

13:00	開場
13:30	開会　あいさつ　太田 寛行 茨城大学長
⋮	**第１部　パネリスト発表** ●パネリスト 金野 満 氏（茨城大学副学長（研究・産学官連携）） 三浦 善司 氏（株式会社リグノマテリア代表取締役社長） 松田 慧吾 氏（茨城県政策企画部地域振興課長）
14:20	
	休憩
14:35	**第２部　パネルディスカッション**
⋮	●ファシリテーター 中村 麻子 茨城大学学長特別補佐（社会連携）・社会連携センター長
15:30	

パネリストプロフィール



金野 満 氏

茨城大学副学長（研究・産学官連携）

専門は熱工学、燃焼工学で「非化石エネルギー系燃料の利用技術」「e-fuel やバイオ燃料の利活用技術」「環境負荷の小さなエンジンシステムの開発」等について研究を行っている。著書として「EAS-ERIA Biodiesel Fuel Handbook」、「新エネルギー自動車の開発と材料」など。茨城県産業技術イノベーションセンターアドバイザリーボード委員長、いばらき中小企業グローバル推進機構評議員、日立地区産業支援センター評議員。㈶日本自動車研究所、北海道大学を経て 2007 年に茨城大学教授。現在、茨城大学副学長（研究・産学官連携担当）、茨城大学研究・産学官連携機構長。



三浦 善司 氏

株式会社リグノマテリア代表取締役社長
（茨城産業会議推薦）

1973	東京理科大学工学部経営工学科卒業
1976	上智大学大学院経済学研究科修士課程修了 株式会社リコー入社
1979~1984	欧州本社（オランダ）管理部門担当として駐在
1984~1988	経営管理本部財務部資金・為替担当
1988~1998	欧州本社 CFO、リコーフランス CEO、Gestetner 社 MD として駐在
2000~2013	取締役経理本部長、総合経営企画室長等歴任
2013~2017	代表取締役社長執行役員 CEO
2017~2018	特別顧問
2017~2019	㈱ｺｶ・ｺｰﾗﾎﾞﾄﾗｰｽﾞｼﾞｬﾊﾟﾝ社外取締役（監査等委員）
2019~2020	㈱LIXIL グループ社外取締役（監査委員会・委員長等）
2019~	ポラリス・キャピタル・グループ株式会社取締役就任
2019~	ﾄﾚｼｽﾃﾑｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ㈱社外取締役（会長就任）
2019~	株式会社リグノマテリア代表取締役 CEO 就任



松田 慧吾 氏

茨城県政策企画部地域振興課長

（いばらきカーボンニュートラル
産業拠点創出プロジェクト関係）

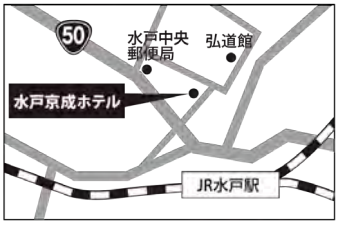
1986 年生まれ神奈川県出身
2009 年　早稲田大学第一文学部卒業
2009 年　国土交通省入省　住宅局住宅政策課法制係員
2011 年　自動車局総務課企画室企画係員
2012 年　鉄道局総務課企画室企画第２係長
2013 年　都市局まちづくり推進課企画係長
2015 年　航空局航空事業課企画調整官
2017 年　内閣府防災担当計画担当参事官補佐
2019 年　茨城県政策企画部地域振興課長

お申し込みはホームページよりお願い致します。※申込〆切 令和３年 11 月５日(金)

◀◀◀お申し込みはこちらから
https://forms.office.com/r/qa23Ecnq8M

茨城大学社会連携センター　検索

【お問い合わせ】茨城大学社会連携センター
TEL:029-228-8585　Mail:chiikirenkei@ml.ibaraki.ac.jp



【会場】
水戸京成ホテル
〒310-0011
水戸市三の丸１丁目 4-73
TEL 029-226-3111

※駐車台数に
限りがございますので、
公共交通機関のご利用に
ご協力をお願いします。

一般社団法人水戸観光コンベンション協会と相互の連携協力協定を締結

茨城大学と一般社団法人水戸観光コンベンション協会は、2021 年 9 月 15 日、相互連携・協力に関する協定を締結しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、締結式は本学水戸キャンパスおよび水戸駅南サテライトの 2 つの会場をオンラインで接続して実施しました。



本協定は、互いに有する資源や機能等の効果的な活用を図り、観光振興やコンベンション誘致等を推進することを目的に締結されました。相互が緊密に連携・協力をすることにより、文化学術振興及び経済の活性化、地域の人材育成並びにコンベンションにかかる市民意識の向上を目指します。



水戸観光コンベンション協会の加藤高藏会長は、「水戸市では観光産業は大きなウエイトを占めており、交通、宿泊業など多岐に渡る産業が観光を支え地域経済の発展に貢献している。本協定締結を機に、大学の地域経済連携プログラム等に協力し合って行くとともに、大学と本協会がお互いに発展に向け手を携えていければ。」と述べました。

また、本学の太田寛行学長は、今年 3 月に本学にて策定したイバダイ・ビジョン 2030 の内容に触れた上で、「本学は住民、自治体、企業、団体など社会のさまざまな主体と、調和の取れた良好な関係をつくるハブであり、ハブ機能を強化するためにも今回の連携は必要。両者の連携協力で、地域の人材育成だけでなく、地域における知的基盤の強化、文化学術振興や経済の活性化などの推進が見込まれる。」と期待を寄せました。

今後、両者の連携を強化し、学生のインターンシップ受入れや観光イベントでの運営ボランティア等の地域連携活動を通じて、活力と魅力あふれる水戸のまちづくりに取り組んでいきます。

関連リンク

- 水戸観光コンベンション協会　https://mitokoumon.com/



≪連携協定事業≫
（一社）水戸観光コンベンション協会
×
茨城大学 Ibaraki University
国立大学法人　茨城大学

参加費 無料

学会等開催支援セミナーin水戸

学会等の開催に携わっている先生方を対象に、水戸開催における助成金制度及び支援メニュー、令和５年７月開館予定の水戸市民会館の情報等をご紹介します！
コロナ禍で学会の開催形態が変化する中、安心・安全な開催を目指すために役立つセミナーです。ぜひこの機会にご参加ください！

2022年3月18日(金)
13:30～15:00（受付開始13:00）

ハイブリッド開催
（現地会場＆
オンライン配信）



現地会場　茨城大学　社会連携センター3階研修室
（水戸市文京2-1-1　水戸キャンパス内）

申込方法　QRコードまたは以下URLより必要事項を入力の上お申込みください。URL➢　https://onl.la/J3V287d

申込締切　３月１１日（金）17:00まで

内　容

※敬称略

開会挨拶	水戸観光コンベンション協会 専務理事 飯村 健一
茨城MICEファンクラブ紹介	茨城県MICE誘致推進協議会
助成金制度及び支援メニュー等紹介	水戸観光コンベンション協会 〃
水戸市内会場施設紹介	〃
コンベンション開催支援体験談	茨城大学 工学部教授 乾 正知
	茨城大学 社会連携センター長 中村 麻子
閉会挨拶	
個別相談会（※希望者のみ）	

主催：（一社）水戸観光コンベンション協会　国立大学法人茨城大学

お問い合わせ　（一社）水戸観光コンベンション協会　☎：029-224-0441　✉：kanko310@sunshine.ne.jp

【資料１５】

令和３年度　茨城大学社会連携センターアドバイザリーボード意見書

＜１＞　令和３年度社会連携センターの活動・取り組みについて

①全体について

文化の継承から、時代の潮流に即したアントレプレナーシップ教育やリカレント教育の展開、更には産業界・自治体等地域で活動する機関との連携推進や学生のプロジェクト支援など、社会連携センターの活動により、茨城大学ならではの能動的な社会連携の取組が推進されたと考えております。
コロナ過が収束しないなか、幅広い活動をされていると思います。また、WEB会議等を通じIoT関連スキルも向上していると感じました。
コロナ禍にも関わらず多様な活動が工夫され実践されたことを高く評価します。 特に、新たに立ち上げられたアントレプレナーシップ教育プログラムの今後の展開に強く期待します。ベンチャーの立ち上げなど実利的な側面に限定することなく、できるだけ多くの学生たちを対象に、チャレンジする精神とクリエイティブにものごとを捉えるマインドが育つような教育プログラムを提供していただけたらと思います。次の時代を創る若い世代が夢を育むのは、現実には大学時代を置いて他にないと思っています。学生たちに「何にチャレンジしたいのか？」と問い続け自問させることが、アントレプレナーシップ教育の基本であると思います。
これだけ多くの多彩な取組みを、コロナ禍の状況に関わらず実践されてきたこと素晴らしいと思います。共有ありがとうございます。
昨年に続き新型コロナの度重なる拡大ため、事業の開催については色々と難しい判断があった事と思います。その中でもアントレプレナーシップ教育プログラムのスタートや、社会的ニーズの高い「情報処理エンジニアの育成セミナー」や日銀・水戸ホーリホックなどバラエティに富んだ講師を招いたリカレント教育など、多くの価値ある取り組みを行われたと考えます。また、昨年の知見を活かしてリアルとオンラインを上手く併用して多くの事業を開催された点も素晴らしいと思います。

②各事業について

【アントレプレナーシップ教育プログラムについて】

150名を超える学生が履修したことは、茨城大学の意欲的な取組に対する学生の期待の現れであると考えます。 開講に当たりプログラムの策定や学生への周知等ご苦労もあったと存じますが、PDCAを通じた学生の期待に応え続ける学びの環境の継続により、プログラム受講者がこれからの未来を切り拓く人財として地域内外で飛躍されていくことを期待しております。
基本的なアントレプレナーシップ教育と共に、茨城県にある茨城大学として地域の特性を生かしたプログラムも用意し、継続してください。
「入門Ⅰ」に150名以上の履修登録があったという事実は、茨城大学のパワーを示すものと思います。特に新入生は大学に対して新鮮な期待感を持っているはずです。「鉄は熱いうちに打て」の諺通り、入門編で学生たちのマインドをオンすることができるかどうかが決め手であり、教育のデザイン力が試されます。 私見ですが、多様な領域で活躍する卒業生たちをメンターとして優遇し、それぞれの経験談を語ってもらうことは、学生たちにとってもっとも有益な学びとなるように思います。少人数でおこない、メンターを囲んで語り合うこともよいでしょう。その中から、熱意あるビジネスプランが生まれる可能性があります。
アントレプレナーシップは、イノベーションやレジリエンス力など、現在や今後の変化の時代を生き抜くために必要な力であると考えます。コンテストでの成績は残念ではあるが、そこ自体が目的ではなく、プログラムを受ける前と後での比較などにより、KPIを明確にすることも必要ではないでしょうか。次年度からは、今年度のプログラム受講者がアンバサダーやメンターとして活躍され、さらに広がて行くことを望みます。
アントレプレナーシップ教育プログラムが目指す人材像は企業家だけでなく、ひろく社会人全般にとって有益であり、大学の中でアントレプレナーシップを学ぶ事が出来るのは、学生にとって貴重な機会であると期待しています。環境やジェンダーなど社会的課題に関心を持つ学生は多く、解決のための選択肢としての「起業」を考える機会にもなるのではないでしょうか。一方、昨年７月に行われたセミナーやキックオフシンポジウムの参加者が少ない事が気になりました。大学でのコロナ感染と重なり悪いタイミングの時期だったのでしょうか。

【地域連携事業、企業・産業界、自治体・地域等との連携について】

大学を構成する教職員及び学生と連携協定先自治体の実務者間による率直な意見交換会は、多様な声を聴き、考えを深化させることができることから、有意義であるとともに非常に重要な機会と考えます。 こうした地域のアクターが集い耳を傾け合う場づくりの継続が、持続可能な地域づくりを支える根底になると考えられるため、継続した企画展開を期待しております。
全般的にも言えることですが、総花的な活動でなく、重点項目、地域を明確にして実績を積み重ねる時期だと考えます。
「地域連携事業」や「企業・産業界、自治体・地域等との連携」については、社会教育や生涯学習とも繋げて考えるとよいと思います。学びは、すべての人にとって、生涯をかけて実践するものであると考えます。それが、高等教育を終えた途端に終焉するのは、極めて不自然なことなのに、それが当たり前になっています。大学も学生を卒業させることが使命ととらえられがちです。リカレント教育は、教えてもらう学びだけではなく、ともに学び合うこと、また時には教える立場に立つことで、真剣な学びの機会を得ることができたりします。このようなタテ・ヨコ・ナナメの学びのプラットフォームを巧みにデザインすることで、地域に生活し働く人たちの協奏力が養われていくのではないでしょうか。
例えば、大学院で学びつつ、地域おこし協力隊など地域での活動に関わっている方などあれば、とても良いロールモデルなのではないかと思います。地域や企業との連携は茨城大学の強みの一つでもあると思いますので、そうしたモデルでの発信をしていくと良いと思います。
古くより課題とされている「東京一極集中」はコロナ禍以降、反転する兆しが(多少)見られます。分散化社会の実現に為には、地方での「仕事・職場」が何より重要であり、大学の有する知見(自然災害対策・再生可能エネルギー・デジタル技術)の活かせる場が数多くあると思います。アントレプレナーシップ教育プログラムのスタートをきっかけに、より企業との交流を強化していただきたいと思います。

【リカレント教育について】

受講者ニーズを捉えた場所を問わない受講環境整備の進展により、より一層、魅力ある教育環境が構築されたと考えます。 引き続き、受講者ニーズに応じたリカレント教育を推進されるとともに、専門分野を体系的に受講する専門コースの開講など、新たな取組に期待しております。
リカレント教育に熱心に参加する企業、自治体等の実績のアナウンス効果により、継続事業として充実していくことを望みます。
上記と同じ。個別なものとして捉えるのではなく、学び合いの“カフェ”のような場づくりを志向したらよいと考えます。
子育て世代、子育てが終わる世代、またはセカンドキャリアを考える世代など、大学に戻る方が増えています。この傾向は、コロナ禍で大学講義のオンライン化が広がったことでさらに進んでいます。ただ、多くの人はその機会に気づかずに終わってしまいます。潜在的なマーケットへのアプローチができると良いのではないでしょうか。
茨城県の要請を元に開講した「情報処理エンジニア育成セミナー」は１つの成功例だと思います。個々の関心に基づき講座を自由に選択できる「リカレント教育」も重要であるし、社会的ニーズの高い分野を大学でリサーチし、時流に即した講座を開講する事も大切であると考えます。どっちつかずではありますが共に維持していただきたいと私が考えます。また、サイバーセキュリティ対策の強化についての講座などはいかがでしょうか？業種や規模にかかわらず全ての企業がサイバー攻撃の標的になり得る時代であるため社会人にとって関心の高い事項ではないでしょうか。

③その他

益々多様化が求められる現在、地方における知の拠点としての国立大学の活動、人材輩出を期待します。
今回のアドバイザリーボードでの活動報告をお聞きして、率直に感じたことを述べますと、「どこの大学でも同じような報告がおこなわれているかもしれない」ということでした。茨城大学の理念や強みをしっかりと把握し、特色ある活動をおこなっていくことが求められていると思います。これはクチで言うのは易しいけれど、なかなか難しいことです。せめて、センターの活動の柱を箇条書きで羅列するだけではなく、優先順位を付けたり、上位概念と下位概念に分けるなど、構造化できるとよいですね。概念図なども併記していただくと、より分かりやすくなるでしょう。そのような検討を通して、省察が進むのではないでしょうか。
全体として、これだけの取組みをされながら、それが見えづらいのがもったいないと思います。今回の項目にある、アントレプレナーシップ教育、社会連携、リカレント、それぞれにフレームを作って一つ上の次元で発信していくことで、大学のポジショニングも見えやすくなると思います。
「大学の社会連携」を考えた時、今までは大学であったり学生さんがいかに地域に貢献してくれるかという視点で物事を考えていました。しかしコロナ禍以降、対面での授業や接触の機会が大幅に減少し、キャンパスに通うことなくほぼ全ての単位を取り終える学生が出てくる可能性を考えると、地域社会が学生に対しどのような貢献が出来るかということを考える必要性を感じます。

＜２＞　社会連携センターの今後の活動、大学および社会の中で果たすべき役割、そのために必要なことなどについて、ご助言をお願いいたします。そのほか、ご自由にお書き下さい。

将来の予測が困難な「非連続の時代」を迎える今、地域の産学官が連携できることは連携して、課題解決に向けて果敢に挑戦していくことが必要です。 このため、今後も、地域のプラットフォーム機能を担われている社会連携センターが学内や産学官の連携のハブとなり、取組を推進あるいは促進する地域のエンジンであり続けることを期待しております。
いばきらTVへの積極的な参加など県との共創による情報発信があると、多岐にわたる活動がより多くの人に伝わると思います。
国立大学はミッション再定義を経て機能別分化が図られ、茨城大学には、社会変革のエンジンたり得る大学への機能強化が求められていると思います。社会連携センターは、まさにその核として、地域に存在する多様なセクターをつなぐコーディネート機能を果たしていくべきと思います。今、リビングラボやアイデアソンなどのしかけや、CSV、CSRの推進など、ポスト経済成長型社会づくりに向けてのさまざまな取り組みが世界的に起こっています。そのような先進的な取り組みの情報を収集したり、率先して実践していくことも大学の重要な役割であると思います。
今後の大学の存在そのものを考えるうえでも、社会連携センターの役割はますます重要になっていると思います。そして、前述したオンライン化により、茨城大学への進学はこれまで想定していなかったエリアの方々も入学されたり、関わる機会が広がっています。全国の大学の中で、何が茨城大学の際立った特色なのか。他にはない強みなのか。考えていく必要があると思います。
一線を退いたシニア層との結びつきを強化するのも一案ではないでしょうか。シニア層の知識や経験、人脈は学生にとって勉強になり、地域の活性化にとっても有用だと思います。また、資金的にも余力のあるシニア層を対象としたリカレント教育はしっかりとした受講料も期待でき、大学経営の観点からも有用ではないでしょうか。

茨城大学社会連携センターアドバイザリーボード委員名簿

	氏名	会社名	役職名	任期	適用条項
1	小瀧　理	助川電気工業株式会社	代表取締役社長	R2.8.1　～　R4.3.31	内規 第３条 （１）
2	蓮見　孝	筑波大学 札幌市立大学	名誉教授	R2.8.1　～　R4.3.31	内規 第３条 （１）
3	深澤　泰子	茨城県	政策企画部計画推進課長	R2.8.1　～　R4.3.31	内規 第３条 （１）
4	光畑　由佳	有限会社モーハウス	代表取締役	R2.8.1　～　R4.3.31	内規 第３条 （１）
5	山路　薫	日刊工業新聞社	茨城支局支局長	R2.8.1　～　R4.3.31	内規 第３条 （１）